

発想を変える
私たちが変わる
世界を変える

PARC自由学校

2020

pacific asia resource center
freedom school



PARCとは？

わたしたちの暮らす社会のこと、世界とのつながり——。一緒に考えてみませんか？

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC: Pacific Asia Resource Center)は、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできる社会をつくることをめざして様々な活動に取り組んでいます。南の国々・人びとの状況や国際的な課題についての情報収集、問題の解決に向けた政策提言活動やキャンペーン、調査研究活動を通したオルタナティブの提案とともに、雑誌『オルタ』、PARC自由学校、開発教育教材としてのオーディオ・ビジュアル作品、インターネットを通した情報発信を行なっています。

南と北の人びとが対等・平等に、ともに生きていける関係をつくりだすことと、日本社会が変わることは、別々のことではありません。人びとが国境を越えて出会い、ネットワークを広げ、エンパワーしあっていく、その媒介役となることをPARCはめざしています。

調査研究活動

PARCでは国内外のネットワークを活かして、国境を越えた調査活動を行なっています。これまでに、アジアにおける自由貿易地域研究、日系多国籍企業研究、バナナ・エビ研究、グローバリズム研究などを行いました。自分の足で歩き、自分の目で見て、手でさわり、匂いを嗅ぎ…。ということを中心に、専門家に頼らず自分たちの力で調査する「はだしの研究者」を生み出していくことも目的としています。

◇最近のグローバリズム研究：ニューエコノミクス研究会／コンビニ／ブラック企業／鉱物資源の収奪／バナナ／ファストファッション など



政策提言・キャンペーン

海外/国内のNGOや社会運動と連携し、政府開発援助 (ODA) や貿易、債務問題、貧困削減などの 이슈について、日本政府や国連諸機関、IMF/世界銀行などの国際機関への申し入れや提言を行なっています。現在は TPP・RCEPなどの自由貿易協定による市民生活への負の影響を明らかにし、是正するためのアクション・ロビイングを展開しています。



オーディオ・ヴィジュアル (AV) 作品の制作

世界の現実をとらえ、社会や私たちの暮らしを見つめなおす視点を提供する教育教材を制作・販売しています。エビやバナナ、ペットボトルの水、バイオ燃料、パーム油など、身近なモノとグローバル化、コーヒーや債務から考える南北問題、開発や児童労働など、多彩な内容の作品は全国の図書館や学校、開発教育の現場で活用されています。



PARCの会員になって活動を支えてください

PARCは市民のみならずと共に考え活動するNGOです。PARCの活動は、会員の方々の会費と各分野の活動への参加・協力によって支えられています。PARCの理念に賛同いただける方は、ぜひ会員になって一緒に活動していきませんか？

○PARC会員にはどんな人がいるの？

現在、PARC会員は約420人、皆さんの職業、地域、年齢、活動内容はさまざまです。PARCの趣旨にご賛同いただき、その活動に参加または応援して下さる人ならどなたでも会員になることができます。会員総会でPARCの基本的な活動方針を決めています。

○PARC会員になると…

- PARC制作DVD・VHS (オーディオ・ヴィジュアル) を2割引で購入いただけます。 ●PARC自由学校の講座への単発受講が可能になります。
- 海外から届く資料の閲覧が無料となります。 ●PARC会員メーリングリストへの参加ができます。
- PARC関連イベントに会員割引価格で参加できます。 ●会員総会での議決権をもつことができます。

○年会費

一般会員 12,000円／夫婦・パートナー会員 18,000円／学生会員 8,000円／賛助会員 20,000円

○月々500円からのマンスリーサポーターも募集しています。詳しくはウェブサイトへ
→<http://www.parc-jp.org>



世界・社会の学校 World and Society

クラスNo.		ページ
01	2020年 持続可能な未来への分岐点—グローバル・クライシスと日本の選択	4
02	地域主義という希望—公共を再生する世界の都市に学ぶ	6
03	平和のための日韓市民連帯—1700万人の「キャンドル革命」に学ぶ	8
04	「表現の不自由展中止事件」の本質とは何か—検閲・差別・管理への抵抗をめざして	10
05	いま何が問われているのか—関東大震災朝鮮人虐殺	12
06	森口裕・沖縄を見つめた写真の世界	14
07	「あら、こんなところにナショナリズム!？」〈日本的なるもの〉の研究	16

環境・暮らしの学校 Environment and Ways of Life

クラスNo.		ページ
08	橋本淳司と歩く わくわく水の旅—自治・防災・未来の〈まち〉をデザインしよう	20
09	ごみ箱の向こう側を見に行こう!—現場で学ぶプラスチックごみ	22
10	コミュニティ・デザイン・ワークショップ—関係の豊かさを描く、創る、表現する!	24
11	畑で実践!!〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培	26

表現・ことばの学校 Creative Activities and Language

クラスNo.		ページ
12	ピオダンサー—Diversity: 豊かさのなかへ	28
13	表現することは生きること	30
14	ケイトの“What's Happening In The World!?”	32
15	武藤一羊の英文精読	33
16	世界のニュースから国際情勢を読み解こう	34

特別講座・ツアー Special Courses, Tour

	ページ
時代・社会を問い続ける者たち	36
デジタル経済と人権・民主主義	38
ワンコイン・シネマ・トーク	40
日本の移民・難民のいま	41
アクションツアー—沖縄 2020—平和の祈りを沖縄から	42
八王子・ユギムラを訪ねる1day trip—「持続可能な地域づくり」はあなたのそばに	44
あるがままの自分が認められる場所—「やまなみ工房」を訪問する旅	45

PARC自由学校へようこそ!

PARC自由学校とは

^{パルク} PARC自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すオルタナティブな学びの場として1982年に開講しました。それ以来、アジア、アフリカ、中南米など世界の人びとの暮らしや社会運動を知るクラス、世界経済の実態や開発を考えるクラス、環境や暮らしのあり方を考えるクラスなど、毎年約20講座を提供しています。私たちが生きている世界のこと、そしてその世界とつながっている日本社会のことを知りたい。本当に豊かな暮らし方や生き方のヒントが欲しい。自分らしさを表現するための技術を身につけたい。そんな人たちが出会い、講師と共に学びあうのが自由学校です。

新たなビジョンを育み、その実現への一歩を踏み出すきっかけを、自由学校で探してみませんか。





© Backbone Campaign

世界・社会の学校

World and Society

- 01 2020年 持続可能な未来への分岐点—グローバル・クライシスと日本の選択
ミューシバリズム
- 02 地域主義という希望—公共を再生する世界の都市に学ぶ
- 03 平和のための日韓市民連帯—1700万人の「キャンドル革命」に学ぶ
- 04 「表現の不自由展中止事件」の本質とは何か—検閲・差別・管理への抵抗をめざして
- 05 いま何が問われているのか—関東大震災朝鮮人虐殺
- 06 森口裕・沖縄を見つめた写真の世界
- 07 「あら、こんなところにナショナリズム!？」〈日本的なるもの〉の研究

2020年 持続可能な未来への分岐点

グローバル・クライシスと日本の選択

グローバル化によって人・モノ・資本・サービスの移動が促進され、経済が拡大すれば社会全体が豊かになるという「成長の公式」の下、世界は飽くなき欲望を追求してきました。しかしその結果、私たちは多くの危機に直面しています。格差拡大や気候危機、食料不足、貿易戦争、移民・難民など各地で問題が噴出し、民主主義による統治も困難となり各国・地域での政治状況が揺らんでいます。これらの状況とつながり、日本でも貧困・格差や地域経済の衰退など多くの課題があります。どうすれば持続可能な世界が実現できるのか。2020年をその転換点とできるよう、国際市民社会の視点に立って何をすべきかを考えます。

● 2020年6月～11月 ● 原則として隔週金曜日19:00～21:00 ● 全10回 ● 定員30名 ● 受講料：34,000円

6/19

オリエンテーション

私たちはどこに立っているのか

—グローバル・クライシスの構造を解きほぐす

| 中山智香子 (東京外国語大学 教授 / PARC 理事)

世界が足元から揺らぐような出来事が、次々と起こっている。一国では打開できず、国際社会の足並みは乱調である。ここでまず立ち位置と、時空間のとらえかたを見直してみよう。21世紀の「リオリент」である。



● 主著:『経済ジェノサイド』平凡社新書 2013 ● 参考文献:アンドレ・グンダー・フランク『リオリент アジア時代のグローバルエコノミー』藤原書店 2000/峯岡『2100年の世界地図 アフラスアの時代』岩波新書 2019

Part 1. グローバル・クライシスと日本

7/3 〈特別オープン講座〉

【気候危機と資本主義】

大洪水の前に

—グレッタさんとマルクスから「気候危機」を考える

| 斎藤幸平 (大阪市立大学経済学部 准教授)

気候危機が深刻化するなかで、資本主義そのものを見直す必要が出てきています。無限な経済成長を有限な地球で追い求めることは不可能だからです。この問題をマルクスに立ち返って考えたいと思います。



● 主著:『大洪水の前に マルクスと惑星の物質代謝』堀之内出版 2019 / 『未来への大分岐 資本主義の終わりか、人間の終焉か?』(共著)集英社新書 2019 ● 参考文献:マレーナ・エルンマン、グレッタ・トゥーンベリ著、羽根由訳『グレッタ たった一人のストライキ』海と月社 2019 / ナオミ・クライン著、幾島幸子、荒井雅子訳『これがすべてを変えよう—資本主義vs.気候変動』岩波書店 2017

※特別オープン講座のため、この回のみ参加される一般参加者との合同受講となります

7/10

【戦争・紛争】

なぜ戦争・紛争は繰り返されるのか

—NGOの現場から

| 谷山博史 (日本国際ボランティアセンター(JVC)理事 / 「NGO非戦ネット」呼びかけ人)

米国とイランの対立、パレスチナ問題、北朝鮮の非核化など世界では多くの戦争・紛争が絶えません。国家間のパワーゲームの犠牲となるのは常に人びとです。アフガニスタンはじめ多くの現場で国際NGOとして活動してきた講師に、日本の安保法制・自衛隊派遣の問題、その背景としての各国の軍事化、国際市民社会のカウンター・アクションをお聞きます。



● 主著:『積極的平和主義』は、紛争地になにをもたらすか?! NGOからの警鐘』合同出版 2015 / 『非戦・対話・NGO—国境を越え、世代を受け継ぐ私たちの歩み』(共著)新評論 2017

7/31

【貿易戦争】

WTOから25年、公正な貿易を求める世界の運動

| 内田聖子 (PARC 共同代表)

グローバル化の中で進められてきた自由貿易は、貧困と格差の拡大、地域経済の衰退、民主主義の後退などさまざまな悪影響をもたらした。貿易の本来の目的とは何か、持続可能な経済を求める世界の人びとの運動から考える。



● 主著:『自由貿易は私たちを幸せにするのか?』(編著)コモンズ 2017 / 『TPP・FTAと公共政策の変質 問われる国民主権、地方自治、公共サービス』(共著)自治体研究社 2017 ● 参考文献:ダニ・ロドリック著、岩本正明訳『貿易戦争の政治経済学 資本主義を再構築する』白水社 2019

持続可能な農と食をつくる 小規模・家族農業とアグロエコロジー

関根佳恵 (愛知学院大学 准教授/家族農林漁業プラットフォーム・
ジャパン 常務理事)

SDGs (持続可能な開発目標) の目標「ゼロ
飢餓」は今も実現していません。私たちの
農と食が持続可能なシステムに移行するた
めに、国連は小規模・家族農業とアグロエ
コロジーを推進しています。世界の潮流を学び、日本の
の針路を考えましょう。



●主著: Kae Sekine and Alessandro Bonanno 『The Contradictions of Neoliberal
Agri-food: Corporations, Resistance, and Disasters in Japan』 West Virginia
University Press 2016/ Alessandro Bonanno, Kae Sekine, and Hart N. Feuer
(Eds.) 『Geographical Indication and Global Agri-Food: Development and
Democratization』 Routledge 2020 ●参考文献: 国連世界食料保障委員会
専門家ハイレベル・パネル『家族農業が世界の未来を拓く』農文協 2014/
小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン編『よくわかる国連「家族農業の
10年」と「小農の権利宣言」』農文協 2019

Part 2. 日本の危機を乗り越える

10/9

移民・難民問題と右翼ポピュリズム

——ヨーロッパの経験から

板橋拓己 (成蹊大学法学部政治学科 教授)

近年のヨーロッパでは、右翼ポピュリズム
という勢力が、移民・難民問題を争点に掲
げて台頭している。そうした動きがリベラ
ルな民主主義を脅かしていること、そしてそれは日本
にとっても無縁ではないことを論じてみたい。



●主著: 『アデナウアー 現代ドイツを創った政治家』中公新書 2014/『黒
いヨーロッパ ドイツにおけるキリスト教保守派の「西洋 (アーベントラ
ン) 主義、1925~1965年』吉田書店 2016

10/23

偽情報と闘うメディア

——「スロージャーナリズム」とは何か

松本一弥 (朝日新聞 夕刊企画編集長/ジャーナリスト)

偽情報をめぐる動きは「欧米で起きている
知的な話題」として消費されがちですが、私
たちはどこまで問題の本質に迫れているで
しょうか。メディアとアカデミズムのいま
を見つめるとともに、「スロージャーナリズム」とは何
かを考えたいと思います。



●主著: 『ディープフェイクと闘う「スロージャーナリズム」の時代』朝日
新聞出版 2019/『55人が語るイラク戦争 9・11後の世界を生きる』岩波
書店 2011 ●参考文献: 朝日新聞「新聞と戦争」取材班『新聞と戦争』朝日
文庫 2011/ Yochai Benkler 他著『NETWORK PROPAGANDA Manipulation,
Disinformation, and Radicalization in American Politics』 OXFORD
UNIVERSITY PRESS 2018

11/6

資本主義と闘った男

——宇沢弘文と経済学の世界

佐々木実 (ジャーナリスト)



国連がSDGsを唱えるより、はるか50年も前に「社会
的共通資本」の経済学を着想し、持続可能な社会を探究
した宇沢弘文 (1928-2014)。「ノーベル経済学賞に
もっとも近かった日本人」の思想と学問を学ぶ。

●主著: 『資本主義と闘った男 宇沢弘文と経済学の世界』講談社 2019/『市
場と権力「改革」に憑かれた経済学者の肖像』講談社 2013 ●参考文献:
宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書 2000/宇沢弘文『自動車の社会的費
用』岩波新書 1974

11月~12月 (予定) 〈特別オープン講座〉

脱グローバリズム時代への転換期

——国家・地域・民主主義

柴山桂太 (京都大学大学院人間・環境学研究所 准教授)

グローバリズムが民主主義を空洞化させ、
国内の利害調整が機能せず、国際政治・社
会そして人びとの間に深刻な歪みと分断を引き起こし
ている。この状況を打開するためのキーワードは、「国
家・地域・民主主義」である。世界の潮流と日本の現状
をつなぎ、目指すべき方向を考える。



●主著: 『静かなる大恐慌』集英社新書 2012/『グローバリズムが世界を
滅ぼす』(共著) 文春新書 2014

※特別オープン講座のため、この回のみ参加される一般参加者との合同
受講となります

11/20

危機を希望に変える

——資本主義の新しい形と地域再生の新戦略

諸富 徹 (京都大学大学院経済学研究科/地球環境学堂)

地域の発展とは一体どういうことなのか。
地域開発、地方創生など、これまで行われ
てきた取り組みの多くは、必ずしも成功し
ていない。変わりつつある資本主義の新しい
形に応じた、新しい地域再生とは何かを考えたい。



●主著: 『資本主義の新しい形』岩波書店 2020/『人口減少時代の都市一
成熟型のまちづくりへ』中公新書 2018 ●参考文献: 諸富徹『「エネルギー
自治」で地域再生! —飯田モデルに学ぶ』岩波ブックレット 2015/ 諸富徹
編著『入門 地域付加価値創造分析—再生可能エネルギーが促す地域経済循
環』日本評論社 2019

※「2. 地域主義という希望」講座と合同で開催します



© Gabriel Civita Ramirez

ミュニシパリズム 地域主義という希望

——公共を再生する世界の都市に学ぶ

グローバリゼーションの下で新自由主義的な政策が進む中、多くの国で貧困・格差が広がり、地域経済も疲弊しています。そんな中、自治体やコミュニティを基礎にした「公共」の再生の動きが広がっています。水道、電力、教育、住宅などの公共サービスを再公営化する動きや、持続可能な農と食をめざす取り組み、さらには政策決定プロセスを人びとに取り戻すための直接民主主義も生まれています。これらは総称して「ミュニシパリズム（地域主義・自治体主義）」と呼ばれたり、大資本が支配する既存のシステムに抗うという意味で「fearless city（恐れぬ都市）」とも言われます。世界の実践から学び、日本の自治体・コミュニティの再生に向けたアイデアを議論します。

● 2020年6月～11月 ● 原則として隔週火曜日19:00～21:00 ● 全10回 ● 定員30名 ● 受講料：35,000円

6/23

反乱する都市

——新自由主義的資本主義への抵抗

■ 大屋定晴（北海学園大学経済学部 教員）

資本主義世界の新自由主義化の歴史とその負の側面について概説し、「都市への権利」をめぐる世界各地で展開する新自由主義的資本主義への抵抗運動について考察します。



● 主著：『グローバル資本主義と対抗運動：多様な社会運動とマルクス派、その倫理と論理との「翻訳」をめざして』『季刊 経済理論』54巻1号 経済理論学会 2017／『21世紀に生きる資本論』（共著）ナカニシヤ出版 2020（予定） ● 参考文献：デヴィッド・ハーヴェイ著、森田成也他訳『反乱する都市—資本のアーバンイゼーションと都市の再創造』作品社 2013／デヴィッド・ハーヴェイ著、大屋定晴監訳『経済的理性の狂気：グローバル経済の行方を〈資本論〉で読み解く』作品社 2019

7/7

自由と生存のための民主主義

■ 田中 滋（PARC 事務局長）

「1%のために存在する連邦政府」とサンダース上院議員らが米国政府を批判するのもそのはず。あらゆる社会政策から排除されてきた多くの米国の民衆は、もはや国に頼ることなく「手の届く距離の民主主義」を選択するようになってきた。パブリックバンク（市営銀行）、参加型予算編成、エネルギー公社設立、公営住宅政策など——。「民主主義の実験場」で巻き起こる運動をご紹介します。



7/21 予定

ブラジルの連帯経済

——自治体と国政の正面衝突

■ Daniel Tygel（元ブラジル連帯経済フォーラム 事務局長）

極右大統領ボルソナロに治められることになったブラジルだが、一方で地方自治体ではさまざまな革進政策が市民立法によって進められている。時にその政策は正面衝突することになるが、果たして勝つのは地方自治か、連邦政府の圧政か…。



8/19(水)

欧州に広がるミュニシパリズム

——バルセロナの地域政党と直接民主主義

■ 岸本聡子（トランス・ナショナル研究所〈TNI〉オルタナティブ公共政策プロジェクト 研究員）

公共財やサービスなど、人が尊厳ある暮らしをするために必要なものの公的な所有を取り戻していく作業が「再公営化」として現れています。地域から民主主義を再定義、発展させるミュニシパリズムを題材に議論しましょう。



● 主著：『再公営化という選択—世界の民営化の失敗から学ぶ』（共編著）堀之内出版 2019 https://www.tni.org/en/RPS_JP ● 参考文献：岸本聡子『The Future is Public: Towards Democratic Ownership of Public Services』（共著）トランス・ナショナル研究所 2019 https://futureispublic.org/wp-content/uploads/2019/11/TNI_the-future-is-public_online.pdf

9/15

PPP/PFIと英国の「公共への回帰」

三雲崇正 (弁護士/新宿区議会議員)

1980年代以降、あらゆる公共サービスを民営化してきた英国で近年起きている「公共への回帰」。その背景にあるPPP/PFIの特徴や英国での評価、政策の変化について話す。また、このような英国の動きと逆行するかのように見える日本の政策についても比較分析する。



※ PPP = パブリック・プライベート・パートナーシップ。日本では「官民連携」と言われ、民間の資金や技術・ノウハウを使って公共サービスや公共施設の管理・運営を行うこと。

※ PFI = プライベート・ファイナンス・イニシアティブ。官民連携の手法の一つで、特に民間企業が資金調達を行い公共サービスの運営を担う方法。英国で考案され日本でも空港や病院、公共施設で実施されている。

●主著:『安易な民営化のつげはどこに—先進国に広がる再公営化の動き』(共著)イマジン出版 2018/『TPP・FTAと公共政策の変質—問われる国民主権、地方自治、公共サービス』(共著)自治体研究社 2017

9/29

食と農を結ぶ

—学校給食を有機農産物・無償に
転換したソウル市

大江正章 (コモンズ代表/ PARC 共同代表)

2021年からソウル市のすべての小・中・高校で「有機・無償給食」が全面施行されることになった背景、市民の運動や朴元淳^{パクウォンスン}市政の方針を紹介。自治体が率先して市民的公共政策を行う意義、日本でどう実現できるかにも触れる。



●主著:『地域に希望あり—まち・人・仕事を創る』岩波新書 2015/『地域の一食・農・まちづくり』岩波新書 2008 ●参考文献:澤登早苗・小松崎将一編著『有機農業大全—持続可能な農の技術と思想』コモンズ 2019/白石孝編著『ソウルの市民民主主義—日本の政治を変えるために』コモンズ 2018

10/13

「共感資本社会」で新しい経済圏を創る

—コミュニティでお金の流れを変える

新井和宏 (株式会社eumo 代表取締役)

コミュニティにおいてお金の流れを変え、人びとの暮らしや生業を支えるような経済のしくみの可能性について話す。また、すでに各地でさまざまに行われている実践事例についても紹介する。



●主著:『共感資本社会を生きる—共感が「お金」になる時代の新しい生き方』(共著)ダイヤモンド社 2019/『持続可能な資本主義—100年後も生き残る会社の「八方よし」の経営哲学』ディスカヴァー・携書 2019

10/27

「プラットフォーム協同組合主義」とは

—市民が主権を取り戻すために

中野 理 (日本協同組合連携機構(JCA)・協同組合連携部 研究員 / 日本労働者協同組合連合会 理事・連携推進部長)

「GAFA」やUberなどの「プラットフォーム資本主義」に抗して、市民がデジタル経済の主体となる「プラットフォーム協同組合主義」と呼ばれる運動が世界各地で勃興している。この新しい運動を紹介し、「ポスト・キャピタリズム」への可能性を展望する。



11/10

スペイン発〈つながり〉で創る共生社会

—時間銀行の活用

工藤律子 (ジャーナリスト)

「お金」とちがひ、「時間」はどこでも誰でも持っている。町で学校で職場で、それを人のために使い共有することが、つながりを育み、真に豊かで持続可能な社会をつくる。



●主著:『ストリートチルドレン—メキシコシティの路上に生きる』岩波ジュニア新書 2003/『マラス—暴力に支配される少年たち』集英社 2016 ●参考文献:工藤律子『ルポ 雇用なしで生きる—スペイン発「もうひとつの生き方」への挑戦』岩波書店 2016/工藤律子『ルポ つながりの経済を創る—スペイン発「もうひとつの世界」への道』岩波書店 2020(予定)

11/20(金)

危機を希望に変える

—資本主義の新しい形と地域再生の新戦略

諸富 徹 (京都大学大学院 経済学研究所/地球環境学堂)

地域の発展とは一体どういうことなのか。地域開発、地方創生など、これまで行われてきた取り組みの多くは、必ずしも成功していない。変わりつつある資本主義の新しい形に応じた、新しい地域再生とは何かを考えたい。



●主著:『資本主義の新しい形』岩波書店 2020/『人口減少時代の都市—成熟型のまちづくりへ』中公新書 2018 ●参考文献:諸富徹『「エネルギー自治」で地域再生!—飯田モデルに学ぶ』岩波ブックレット 2015/諸富徹編著『入門 地域付加価値創造分析—再生可能エネルギーが促す地域経済循環』日本評論社 2019

※「1. グローバルクライシスと日本の選択」講座と合同で開催します



平和のための日韓市民連帯

—1700万人の「キャンドル革命」に学ぶ

政府レベルでの関係が史上最悪だからこそ、隣の国の社会や文化を知り、人びと同士の交流を深めていくことが、平和のためにとても大切です。そして、韓国では人権保障・格差解消・福祉充実・オーガニック給食無償化など人びとの命と暮らしを守る普遍的福祉政策や社会的連帯経済が進んでいます。そこに学びつつ、市民レベルから望ましい関係づくりを考えていきましょう。

●2020年6月～10月 ●木曜日19:00～21:00 ●全7回 ●定員30名 ●受講料：28,000円

◎コーディネーター

| 白石 孝 (日韓市民交流を進める希望連帯代表 / PARC 理事)

ソウル市の革新的自治政策をはじめ韓国の民主政権や自治体が普遍的福祉政策を進めていることを日本に紹介する活動を進めている。



●主著：『ソウルの市民民主主義—日本の政治を変えるために』コモンズ 2018 / 『マイナンバー制度—番号管理から住民を守る』自治体研究社 2015 ●訳書：キム・イエスル著、白石孝 日本語版監修・解説『写真集 キャンドル革命—政権交代を生んだ韓国の市民民主主義』コモンズ 2020

| 大江正章 (コモンズ代表 / PARC 共同代表)

1957年生まれ。2000～08年に日韓市民社会フォーラムに参加。現在は韓国の有機農業や先進的な学校給食の取り組みなどを紹介し、日本での普及を呼びかける。今年『写真集 キャンドル革命』を編集・出版した。



●主著：『地域に希望あり—まち・人・仕事を創る』岩波新書 2015 / 『有機農業大全—持続可能な農の技術と思想』(共著)コモンズ 2019

Part 1. 日韓関係を改めて考える

6/4

日韓関係

—戦争裁判・サンフランシスコ講和体制から考える

| 内海愛子 (恵泉女学園大学 名誉教授)

日本の植民地支配—それはいつどのように清算されたのか。戦争裁判が裁かなかった植民地支配、判決を受け入れたサンフランシスコ平和条約、サ条約の枠組みの中で締結された日韓条約—今日の日韓関係の問題をサンフランシスコ講和体制の中で考える。



●主著：『朝鮮人BC級戦犯の記録』勁草書房 1982 のち岩波現代文庫 2015 / 『日本軍の捕虜政策』青木書店 2005 ●参考文献：内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア 第二版』山川出版社 2010 / 内海愛子他『いま、朝鮮半島は何を問いかけるのか—民衆の平和と市民の役割・責任』彩流社 2019

7/2

韓国民民主化100年の歩みをたどる

| 青柳純一 (翻訳家 / 金起林記念会 共同代表)

『韓国民民主化100年史』(新幹社 2019) をテキストにして、1919年3・1 独立運動からキャンドル革命までの韓国民民主化の歴史を3つの時期に分けて概観し、解説する。



●編訳書：白楽晴『韓国 民主化2.0—「二〇一三年体制」を構想する』岩波書店 2012 / 盧武鉉『韓国の希望 盧武鉉の夢』現代書館 2002 ●参考文献：青柳純一『韓国民民主化100年史：三・一独立運動からキャンドル革命へ』新幹社 2019 / キム・イエスル著、白石孝 日本語版監修・解説『写真集 キャンドル革命—政権交代を生んだ韓国の市民民主主義』コモンズ 2020

7/16

日韓のメディア事情をみる

| 岩崎貞明 (メディア総合研究所 事務局長)

近いようで遠い日本と韓国、メディアと市民の状況にもそれぞれ特徴がある。表現の自由をめぐる問題やメディア労組の交流などを通じて、日韓のメディアのあり方を比較する。



●共著：『放送制度概論—新・放送法を読みとく』商事法務 2017 / 『ユーザーからのテレビ通信簿』学文社 2013 ●参考文献：岩崎貞明他編『政治権力VSメディア 映画「共犯者たち」の世界』夜光社 2018 / メディア総合研究所『放送レポート』283号 大月書店 2020



イ・スンシン前大集会遠景

7/30

韓国人から見た日本社会、 そして韓国市民社会とキャンドル革命

イ・ジョンヨン (東京大学大学院教育学研究科 准教授)

日本に滞在している韓国人研究者の立場から、日本社会の韓国社会観について、日本人の中高齢者と若い世代の相違などにも触れつつ、コメントする。そして、キャンドル革命を韓国社会はどう評価しているか、革命以降の文政権や検察改革、さらには4月の国会議員選挙(予定)についても語る。



●主著:『韓国社会教育の起源と展開—大韓帝国末期から植民地時代までを中心に』大学教育出版 2008 / 『躍動する韓国の社会教育・生涯学習—市民・地域・学び』(共編著)エイデル研究所 2017 ●参考文献:韓国人研究者フォーラム編集委員会『国家主義を越える日韓の共生と交流—日本で研究する韓国人研究者の視点』明石書店 2016

Part 2. 韓国市民社会の先進的政策に学ぶ

9/3

なぜ、いま韓国文学が読まれるのか

—その魅力と背景

キム・スンボク (出版社クオン代表取締役)

2019年は出版界で「韓国文学」が一気に話題を集めた1年でした。そこまでに至る流れ、そして何が読者のみなさんを魅了したのか、「韓国文学」の“これまで”と“これから”をお話いたします。



9/17

日本よりはるかに先を進む 人権ファーストの国・韓国

—文在寅政権と朴元淳ソウル市政

白石 孝 (日韓市民交流を進める希望連帯 代表 / PARC 理事)

『ソウルの市民民主主義—日本の政治を変えるために』(コモンズ 2018)以降の韓国調査を中心に、現代韓国を日本人としてどう見ていくのか、を解説する。

10/8

「貧困」を解消し新たな協同社会を 創りだす

カン・ネヨン (地域ファシリテーター / 慶熙大学フマニタスカレッジ 講師)

実際の貧困地域で経験した、地域運動の展開と社会的連帯経済との連携、ネットワークについて、法制度面と実践面から例を挙げながら解説する。



●主著:『地域の再構成』アルト出版 2012 / 『世の中のご飯になる共同体運動』図書出版ハンサリム 2019 ●参考文献:馬頭 忠治・藤原 隆信『NPOと社会的企業の経営学—新たな公共デザインと社会創造』ミネルヴァ書房 2009 / 梁炳賢、李正連他編著『躍動する韓国の生涯学習—市民・地域・学び』エイデル研究所 2017

★当講座コーディネーター白石孝と行く「先進的政策をリードする韓国市民社会運動に出会う旅」を今秋開催予定！詳細はお問い合わせください。

「表現の不自由展中止事件」の本質とは何か —— 検閲・差別・管理への抵抗をめざして

2019年夏、日本の戦後最大規模と言える検閲事件が起きました。国際芸術展・あいちトリエンナーレ(あいトリ) 2019での『表現の不自由展・その後』展に対する強制的な展示中止です(「表現の不自由展中止事件」)。同展は、排外主義や歴史修正主義、性差別を背景にして検閲・排除された芸術作品を集め、展示する企画展プロジェクトとして、2015年、東京のギャラリーから出発しました。あいトリで何が起き、残された課題は何なのか、その本質に迫りつつ、日本社会の何が問題なのかをさまざまな論点から問題提起をし、表現の自由への侵害にどう抗するのか、ともに考えていきます。

● 2020年6月～12月 ● 火曜日19:00～21:00 ● 全11回 ● 定員30名 ● 受講料: 36,000円

◎講師&コーディネーター

| アライ=ヒロユキ (美術・文化社会批評)

「表現の不自由展」実行委員会。美術評論家連盟会員。著作に『検閲という空気』『天皇アート論』(社会評論社)、『オタ文化からサブカルへ』『ニューイングランド紀行』(織研新聞社)、共編著に『あいちトリエンナーレ「展示中止」事件』など。



6/16

オリエンテーション

『表現の不自由展・その後』展中止をめぐり何が起きたのか

| アライ=ヒロユキ / 岡本有佳

表現の不自由展はそもそも何を指し、なぜたった3日で中止決定が発表されたのか、その後、「限定再開」されるまで何が起きたのか。検閲された展示空間という現場そのものに触れるメディアがほぼない中で、展示空間を作った当事者の眼から語ります。

●主著: アライ=ヒロユキ『検閲という空気 自由を奪うNG社会』社会評論社 2018 / 岡本有佳・金富子共編著『〈平和の少女像〉はなぜ座り続けるのか』世織書房 2016 ●参考文献: 岡本有佳・アライ=ヒロユキ編『あいちトリエンナーレ「展示中止」事件—表現の不自由と日本』岩波書店 2019 / 安世鴻・李春熙・岡本有佳共編著『誰が〈表現の自由〉を殺すのか—ニコニコサロン「慰安婦」写真展中止事件裁判の記録』御茶の水書房 2017

6/30

イベントのリスクとは何か。市民はどう対応できるのか

| 三木 謙 (差別・排外主義に反対する連絡会)

『表現の不自由展・その後』展の中止以後、さまざまな市民集会やイベントが「安全性」を理由に中止や内容の見直しを迫られています。いくつかの経験を紹介しながらリスクをどう管理し集会やイベントを守るかという議論を皆さんと深めていきたいと思います。

●参考文献: 安世鴻・李春熙・岡本有佳共編著『誰が〈表現の自由〉を殺すのか—ニコニコサロン「慰安婦」写真展中止事件裁判の記録』御茶の水書房 2017



| 岡本有佳 (編集者)

「表現の不自由展」実行委員会。共編著に『あいちトリエンナーレ「展示中止」事件』(岩波書店)、『〈平和の少女像〉はなぜ座り続けるのか』(世織書房)、『だれが日韓「対立」をつくったのか』(大月書店)など。



7/14

〈平和の少女像〉と表現の自由 —— 「慰安婦」問題と歴史修正主義

| 金 富子 (東京外国語大学大学院 教授)



なぜ〈平和の少女像〉は検閲の核心にされたのか。「慰安婦」問題をめぐる現代日本の歴史修正主義を抜きには語れない。講義ではその背景と構造を探っていききたい。

●主著: 『植民地遊廓—日本の軍隊と朝鮮半島』(共著) 吉川弘文館 2018 / 『継続する植民地主義とジェンダー: 「国民」概念・女性の身体・記憶と責任』世織書房 2013 ●参考文献: 金富子「表現の自由と「慰安婦」問題」『誰が〈表現の自由〉を殺すのか—ニコニコサロン「慰安婦」写真展中止事件裁判の記録』御茶の水書房 2017 / 金富子・板垣竜太編著『増補版 Q&A 朝鮮人「慰安婦」と植民地支配責任 (Fight for Justice ブックレット)』御茶の水書房 2018

7/28

表現の自由と規制の相克

—— 憲法から考える争点

| 宮下 紘 (中央大学総合政策学部 准教授)



表現は、人に喜び、怒り、悲しみ、楽しみをもたらします。しかし、表現によって怒りや悲しみが作り出されたとしても、そのことだけでその表現を奪い去ることはできません。表現の自由の意義について考えていきます。

●主著: 『『自粛社会』をのりこえる—「慰安婦」写真展中止事件と「表現の自由」』(共著) 岩波ブックレット 2017 / 『ビッグデータの支配とプライバシー—危機』集英社新書 2017 ●参考文献: 岡本有佳・アライ=ヒロユキ編『あいちトリエンナーレ「展示中止」事件—表現の不自由と日本』岩波書店 2019 / 『表現の不自由展・その後』に関する調査報告書 あいちトリエンナーレのあり方検討委員会 2019年12月18日

8/25

市民社会スペースとしての公共的文化・集会施設の現状と可能性

| 谷 和明 (東京外国語大学 名誉教授)

9条俳句事件をはじめ、公民館などで頻発する表現、集会の自由侵害の現状を検討し、それらを市民社会スペースとして再生させる可能性を国際比較も交えて考える。



●参考文献: 佐藤一子・安藤聡彦・長澤誠次編著『九条俳句訴訟と公民館の自由』エイデル研究所 2018/谷和明『特定の政党の利害に関する事業』解釈の二重基準と公民館の政治的中立性『日本公民館学会年報』第15巻 日本公民館学会 2018

9/8

見守る朝鮮学校美術教育とアート、見守れない日本社会

| 崔 誠圭 (東京朝鮮中高級学校・栃木朝鮮中級学校 美術講師)

朝鮮学校のアート教育は生徒の自主性、今表現できることを今やることを大事にします。美術部のSNSが炎上し、生徒が真摯にかつアートな対応をする中、自分と向き合い、出した答えは。



●共著:『Document YAKINIKU—アーティスト・アクション in 枝川』Artist Action 2013

10/6

アートを社会の中に活かすとは

| 林 容子 (一般社団法人アーツアライブ 代表理事/尚美学園大学 准教授/一橋大学大学院・武蔵野美術大学 講師)

近年欧米では、アートや芸術が人間の健康や高齢化に与える影響やインパクトについての研究が盛んであり、医療やケアの現場にアートが導入されています。急激に高齢化する社会においてアートが果たす役割について考えます。



●主著:『進化するアートマネジメント』レイライン 2004/『進化するアートコミュニケーション—ヘルスケアの現場に介入するアーティストたち』(共著)レイライン 2006 ●参考文献:『アトリップ入門』誠文堂新光社 2020(予定)

10/20

「表現の不自由展中止事件」はどう報じられたか

| 柏尾安希子 (神奈川新聞 記者、論説委員)

これまでも、国家権力の意志と社会の空気を背景に「検閲」は繰り返されてきた。そんな日本社会に突きつけられたのが表現の不自由展の中止だ。責任の一端を担うメディアの一員として、事件をどう見たか振り返る。



●共著: 神奈川新聞「時代の正体」取材班「時代の正体 vol.1—権力はかくも暴走する」現代思潮新社 2015/神奈川新聞「時代の正体」取材班「時代の正体 vol.3—忘却に抗い、語りつづける」現代思潮新社 2019

11/4(水)

歴史修正主義に市民社会はどう向きあうか

——日本とドイツの比較から

| サーラ・スヴェン (上智大学国際教養学部 教授/フリードリヒ・エーベルト財団東京事務所 日本代表)

近年、ドイツでも過去の侵略や虐殺の歴史を「なかった」とする右派の言説・勢力が台頭しています。また移民排斥も大きな社会問題となっています。その背景と市民社会の対抗策、表現・言論空間との関係をお話いただけます。

●主著:『東アジアと欧州における『戦後70年』』『季刊 戦争責任研究』日本の戦争責任資料センター編 2016

11/17

表現の自由と法律家の役割

——裁判、仮処分による権利実現は可能か

| 李 春熙 (弁護士/ニコンサロン「慰安婦」写真展中止事件弁護団)

表現活動に権力が介入するとき、一個人である表現者がこれに対抗して立ち上がることができるでしょうか?ニコンサロン事件とあいつり事件を題材に、裁判所を通じた権利実現の可能性を考えます。



●共著:『誰が表現の自由を殺すのか—ニコンサロン「慰安婦」写真展中止事件裁判の記録』御茶の水書房 2017/『《自粛社会》をのりこえる—「慰安婦」写真展中止事件と「表現の自由」』岩波ブックレット 2017 ●参考文献: 瀬木比呂志『絶望の裁判所』講談社現代新書 2014

12/1

おわりに

——世界の不自由と抵抗

| アライ=ヒロユキ/岡本有佳

検閲や規制など、言論表現への抑圧は日本だけでなく、世界中で見られます。一方、その抵抗運動や政治的対抗表現も、韓国を代表例に多くの国で起こっています。日本の現状を変えるには何が必要か、模索します。

●主著:アライ=ヒロユキ『天皇アート論—その美、“天”に通ず』社会評論社 2014/安世鴻・李春熙・岡本有佳共編著『《自粛社会》をのりこえる—「慰安婦」写真展中止事件と「表現の自由」』岩波ブックレット 2017 ●参考文献:岡本有佳、アライ=ヒロユキ編『あいつりエンナーレ「展示中止」事件—表現の不自由と日本』岩波書店 2019/アライ=ヒロユキ「検閲という空気 自由を奪うNG社会」社会評論社 2018

※今秋東京で新たに「表現の不自由展」の開催が予定されています。ガイドツアーもオプションで検討中。

いま何が問われているのか

——関東大震災朝鮮人虐殺

1923年の関東大震災時に起きた、朝鮮人・中国人に対する虐殺。多くの人びとの地道な調査によって、それぞれの地域での殺害・暴行の経緯が明らかとされ、軍や警察の演じた役割や、日本の民衆のなかの差別意識についても、多角的な解明が進んでいます。ところがその一方で、近年、虐殺の事実を否定する動きや、「殺害は正当防衛」とする虐殺正当化論が広がりを見せ、歴史教科書や追悼行事への攻撃も繰り返されています。差別と暴力を肯定する「流言飛語」は遠い過去の出来事ではないのです。

97年前の悲劇をめぐって、いま私たちに何が問われているのでしょうか？

現場でのフィールドワークや映像を通して考えます。

● 2020年6月～10月 ● 月曜日夜あるいは土曜日午後 ● 全8回 ● 定員30名 ● 受講料：32,000円

◎講師&コーディネーター

■永田浩三(武蔵大学教授/ジャーナリスト)

1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。ドキュメンタリー『森口豁・沖縄と生きる』を制作中。



●主著『ヒロシマを伝える 詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016 / 『奄美の奇跡』WAVE出版 2015

6/1(月) 19:00~21:00

なぜ朝鮮人虐殺の歴史を学ぶのか

■加藤直樹(ノンフィクション作家)

関東大震災時の朝鮮人虐殺という100年近く前の出来事について学ぶのは、2020年の私たちがいる場所を確かめるためだ。いくつかのテーマを提示し、連続講座の出発点にしたい。



●主著『九月、東京の路上で 1923年関東大震災ジェノサイドの残響』ころから 2014年 / 『謀叛の児 宮崎滔天の「世界革命」』河出書房新社 2017 ●参考文献：田原洋『関東大震災と中国人』岩波現代文庫 2014 / 西崎雅夫編『証言集 関東大震災の直後 朝鮮人と日本人』ちくま文庫 2018



震災直後の横浜市



関東大震災時 韓国・朝鮮人殉難者 追悼之碑(東京都墨田区)

6/13(土) 午後

東京都墨田区を訪問

証言でたどる虐殺現場

西崎雅夫 (一般社団法人ほうせんか 理事)

墨田区では、関東大震災時に荒川放水路開削工事や町工場で働く多くの朝鮮人が自警団や軍隊によって虐殺された。今回はその現場を歩くことで起きたことの重みを実感してほしい。



●編著：『関東大震災朝鮮人虐殺の記録—東京地区別1100の証言』現代書館 2016／『証言集 関東大震災の直後 朝鮮人と日本人』ちくま文庫 2018 ●参考文献：関東大震災90周年記念行事実行委員会編『関東大震災 記憶の継承—歴史・地域・運動から現在を問う』日本経済評論社 2014／姜徳相『関東大震災—虐殺の記憶』青丘文化社 2003

6/29(月) 19:00~21:00

映画『隠された爪跡—関東大震災と朝鮮人虐殺記録映画』(1983)

鑑賞

『隠された爪跡』製作から37年を迎えて 韓国在住の遺族を探し歩く

呉 充功 (映画監督)

映画『隠された爪跡』『払い下げられた朝鮮人』製作過程と上映活動を振り返る。関東大震災90周年から再び日韓を往来し虐殺犠牲者の事件真相と遺骨帰郷を待つその家族を7年間に渡り探し歩いた中間報告。



●監督作：『払い下げられた朝鮮人—関東大震災と習志野収容所』1986／『あぼちとオモニ』1984 ●参考文献：「一般を視て凝視めるまで」『日本の教育 1984』現代書館 1984／『映画完成から30年 瑠仁承あぼちと共に』関東大震災90周年記念行事実行委員会編『関東大震災 記憶の継承—歴史・地域・運動から現在を問う』日本経済評論社 2014

7/18(土) 午後

神奈川県横浜市を訪問

神奈川県、特に横浜における虐殺の検証と犠牲者追悼について

山本すみ子 (関東大震災時朝鮮人虐殺の事実を知り追悼する神奈川実行委員会代表)

徹底的に隠蔽された横浜の朝鮮人虐殺を、記憶をもとに検証していきます。そして、「朝鮮人ならばなぜ殺してもいいのか」、「なぜ、朝鮮人虐殺が起こったのか」を考えます。



●主著：『関東大震災時朝鮮人虐殺 横浜証言集』(自費制作) 2016／『横浜における関東大震災時朝鮮人虐殺』『大原社会問題研究所雑誌』第668号 2014 ●参考文献：姜徳相『関東大震災—虐殺の記憶』青丘文化社 2003／山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺 その国家責任と民衆責任』創史社 2003

9/7(月) 18:30~21:00

朝鮮人自らによる真相究明はどのように行われてきたか

鄭 永寿 (朝鮮大学校 助教)

被害当事者である朝鮮人たちはいかに虐殺をとらえ、どのように真相究明活動を展開したのだろうか。その推移と性格について歴史的に考えたい。



●共著：『記録集 関東大震災95周年朝鮮人虐殺犠牲者追悼シンポジウム 関東大震災時の朝鮮人大虐殺と植民地支配責任』朝鮮大学校朝鮮問題研究センター 2019 ●参考文献：山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後—虐殺の国家責任と民衆責任』創史社 2011／鄭永寿「解放後在日朝鮮人運動における『関東大虐殺事件』の真相究明・責任追及(1945-50)」『在日朝鮮人史研究』第47号 2017

9/19(土) 午後

群馬県藤岡市を訪問

藤岡事件を語り継ぐこと

宮川邦雄 (日朝友好連帯群馬県民会議 事務局長)

関東大震災で多くの避難民が埼玉県を通過して、群馬県に押し寄せました。藤岡は、埼玉県境にあり、流言飛語がいち早く流され、朝鮮人17人が住民により虐殺されました。



●参考文献：猪上輝雄『関東大震災(1923年)—藤岡での朝鮮人虐殺事件』(自費出版) 1995

10/3(土) 14:00~16:00

日本の朝鮮植民地支配と朝鮮人虐殺

愼 蒼宇 (法政大学社会学部 教員)

関東大震災時の朝鮮人虐殺を、朝鮮での日本軍・憲兵・警察による軍事行動の延長線上に位置づけて考察することが本講義の狙いです。



●主著：『植民地朝鮮の警察と民衆世界』有志舎 2008／「植民地期の対馬における朝鮮人」『大原社会問題研究所雑誌』第706号 2017 ●参考文献：『日本近代史の『不在』を問う—朝鮮植民地(征服/防衛)戦争からみた官民の『暴徒膺懲』経験』『歴史学研究』第989号 2019

10/26(月) 19:00~21:00

なかったことにさせないために

加藤直樹 (ノンフィクション作家)

膨大な史料と証言が残る朝鮮人虐殺事件を、それでも「なかった」と否認する人びとがいる。荒唐無稽な虐殺否定論を叫ぶ人びとの狙いと、それが社会に何をもちたらずかを考える。

●主著・訳書：『トリック—「朝鮮人虐殺」をなかったことにしたい人たち』ころから 2019／『沸点—ソウル・オン・ザ・ストリート』(訳書)ころから 2016 ●参考文献：内閣府中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会「報告書 1923関東大震災第2編」http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1923_kanto_daishinsai_2/index.html

森口 豁・沖縄を見つめた写真の世界

3年にわたって続けてきた、映像作家・森口豁さんの作品世界をたどる講座。映像ドキュメンタリーの世界で伝説的な作品だけでなく、森口さんならではの、知られざる沖縄を記録したスチール・カメラでの仕事を忘れるわけにはいきません。

4年目は、10代半ばのアサヒカメラでの活躍、後にウルトラマンの脚本家になる金城哲夫との運命的な出会い、沖縄戦の傷跡、1950年代の辺野古、知られざる離島の秘祭や文化・医療・暮らし、島の子どものその後の人生といったテーマに沿って、貴重な写真を手掛かりに語りつくしていただきます。シリーズの案内人は、これまでと同様にジャーナリスト・永田浩三が務めます。

● 2020年6月～10月 ● 原則として水曜日19:00～21:00 ● 全8回 ● 定員30名 ● 受講料：32,000円

◎講師&コーディネーター

■森口 豁 (ジャーナリスト)

小さな島々の少年、子守に明け暮れる幼い姉妹、そして掘っ建て小屋に隔離されたハンセン病の老女など、歴史年表の行間にひそむ「米軍政下の沖縄」の喜怒哀楽。その一点一点の写真と向き合いながら「もう一つのオキナワ」を語り合いませんか？



1937年東京生まれ。59年、玉川大学を中退し米軍政下の沖縄に移住。琉球新報記者や日本テレビ「特派員」として活躍。東京転勤後も沖縄に通い続け、ドキュメンタリー番組28本を製作。『ひめゆり戦史・いま問う国家と教育』などで第17回テレビ大賞優秀個人賞などを受賞。過疎と抗う鳩間島のルポ『子乞い・沖縄孤島の歲月』は連続テレビドラマ「瑠璃の島」にもなった。「沖縄を語る一人の会」代表。

● 主著：『さよならアメリカ 森口豁写真集』未來社 2011 / 『紙ハブと呼ばれた男 沖縄言論人 池宮城秀意の反骨』彩流社 2019

■永田浩三 (武蔵大学 教授 / ジャーナリスト)

一枚一枚の写真には知られざる物語があります。森口さんの沖縄へのリスペクトや素直な驚き、戦争や基地への怒り、人びとに向ける優しいまなざしを、みなさんと一緒に共有し、沖縄を奥行深く学んでいきましょう。



1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。ドキュメンタリー『森口豁・沖縄と生きる』を制作中。

● 主著：『ヒロシマを伝える 詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016 / 『奄美の奇跡』WAVE出版 2015

伊是名島 1960年





伊平屋島 1966年

6/10

写真・沖縄との出会い

中学生のときに会ったカメラ。武者小路実篤の肖像。浦安の「青べか物語」の風景はアサヒカメラに採用される。そして玉川学園高等部の1年後輩・金城哲夫との運命的な出会い。

6/24

神々が来る道・久高島

久高島の男子禁制の聖地・クボウ御嶽。ノ口たちは森口を招き入れ、秘祭の撮影を許可した。初の映像作品『乾いた沖縄』も合わせて紹介し、知られざる島の人びとの祈りと暮らしを浮き彫りにする。

7/8

イーフの浜の戦争・久米島

イーフとは入江。森口は美しい入江の島・久米島で行われた住民虐殺を掘り起こす。島の人びとを殺したのは日本軍の守備隊であった。森口と久米島の人びとのさまざまな出会いの物語。

7/22

島ちゃびとニライの海

森口は八重山のさまざまな離島をすべて訪ねて歩いた。定期船が通わない島々。そこには、困難さだけではない、個性があふれた習俗、葬送のかたちがあった。

9/9

戦さ世を見つめる(1)

1950年代、辺野古には新たに米軍基地が建設されようとしていた。キャンプシュワブである。森口のカメラは地域の変貌を克明に記録した。

9/23

戦さ世を見つめる(2)

繰り返される基地被害。森口はさまざまな人びとの悲しみと怒りを見つめてきた。沖縄各地に立つ「いしぶみ」の解説も合わせて行う。

10/7

浜辺の子どもたち、そしてその後

1960年代、伊是名島の浜辺で少年たちは笑顔で写真におさまった。その後の彼らの人生はどうだったのか。森口が会ったさまざまな沖縄の子どもたちのライフストーリー。

10/17(土) 14:00~17:00

映像でたどる森口豁の世界

永田浩三が監督したドキュメンタリーをもとに、改めて森口豁は沖縄の何を見つめてきたのか、その軌跡をたどる。



伊是名島 1960年

「あら、こんなところにナショナリズム!？」

〈日本的なるもの〉の研究

近年、〈日本的〉〈日本らしさ〉という冠をつけられた文字列がどうもやたらと目に付きます。音楽、サブカルチャー、職場や学校から政府の文化政策まで、気がつくと身のまわりにあふれている〈日本〉。

本講座ではそんな「いつの間にかナショナリズム」に肩までどっぷりつかった実態を見つめ直すことで、社会の位相の現在を捉えます。

● 2020年5月～10月 ● 金曜日19:00～21:00 ● 全7回 ● 定員30名 ● 受講料：24,000円

5/29

「クールジャパン」で再定義される〈日本人〉

| 早川タダノリ (編集者)

内閣府と経産省が主導する「クールジャパン戦略」。もともと日本のコンテンツ産業を海外へ輸出していくための産業振興政策でしたが、海外観光客誘致と対外文化プロパガンダが混じり合うこの戦略のコンセプトには、〈日本的なるもの〉がさまざまに定義されていました。官製文化国策にあらわれた〈日本人〉像について考察します。



●主著：『神国日本のトンデモ決戦生活』ちくま文庫 2014／『「日本スゴイ」のディストピア 戦時下自画自賛の系譜』朝日新聞出版 2019 ●参考文献：『世界が驚くニッポン!』経済産業省 2017<<https://www.meti.go.jp/pr/ess/2016/03/20170308001/20170308001-1.pdf>>

6/12

文化の統制と検閲が殺すもの

| アライ=ヒロユキ (美術・文化社会批評)

東京五輪2020と連動する、文化庁の「日本博」プロジェクト。「日本」という虚像が強いられ、表現の不自由が深刻化するここ数年の動きが何を意味するのか、読み解きます。



●主著：『天皇アート論—その美、“天”に通ず』社会評論社 2014／『あいちトリエンナーレ「展示中止」事件』(共著)岩波書店 2019 ●参考文献：アライ=ヒロユキ『検閲という空気—自由を奪うNG社会』社会評論社 2018

©Stephan Hübsch



6/26

国威発揚と音楽ビジネス

| 辻田真佐憲 (近現代史研究者)

音楽ビジネスは戦前より国威発揚と結びついてきました。東京オリンピック・パラリンピックを迎える今日、あらためてその関係を歴史とともに考察します。



●主著：『天皇のお言葉—明治・大正・昭和・平成』幻冬舎新書 2019／『空気の検閲—大日本帝国の表現規制』光文社新書 2018 ●参考文献：辻田真佐憲『古閑裕而の昭和史—国民を背負った作曲家』文春新書 2020／辻田真佐憲『たのしいプロパガンダ』イースト新書Q 2015

7/10

「母性」のスピリチュアリティと保守化

| 橋迫瑞穂 (立教大学社会学部 兼任講師)

2000年代に登場した「スピリチュアル市場」のなかで、「母性」が重視されると同時に保守的な傾向が見られる現状をご紹介します。母親の葛藤や、フェミニズムとの関係についても検討を試みます。



●主著：『古いをまとう少女たち—雑誌「マイバースデイ」とスピリチュアリティ』青弓社 2019 ●参考文献：橋迫瑞穂『「子宮系」とそのゆくえ—現代日本社会における女性のスピリチュアリティ』『応用社会学研究』第61号 立教大学社会学部研究紀要 2019／島蘭進『精神世界のゆくえ—現代世界と新靈性運動』東京堂出版 1996

9/11

ネット右派とサブカルチャー

| 伊藤昌亮 (成蹊大学文学部 教授)

現在の「ネット右派」を理解する上で欠かせないのが「サブカル」。反権威主義・反リベラリズムと結合した「サブカル保守」は、しかし、私たちにとって大変身近なものではないでしょうか。



●主著：『ネット右派の歴史社会学—アンダーグラウンド平成史1990-2000年代』青弓社 2019

「そろえる」学校

杉原里美 (朝日新聞 専門記者)

5ミリ単位でそろえる靴、鉛筆の本数や下着の色まで指定する校則、黙々と食べる給食、自問自答する掃除の時間…。なぜ学校は、そろえたがるのでしょうか。学校が「そろえる」意味を考えてみませんか。



●主著:『掃除で心は磨けるのか』筑摩選書 2019/朝日新聞「孤族の国」取材班『孤族の国一ひとりがつながる時代へ』(共著)朝日新聞出版 2012
●参考文献:原武史『滝山コミュニティー九七四』講談社文庫 2010

ブラック新人研修は人間をどう変えるのか

古川琢也 (ルポライター)

日本企業がバブル期以前から執着し続ける「異常な」新人研修。しかし過去には取り返しのつかない悲劇も起きています。こうした研修が受講生にどのような影響を与えたのか、実際に起きた事件などから紹介します。



●主著:『セブン-イレブンの正体』金曜日 2008/『ブラック企業完全対策マニュアル』晋遊舎新書 2013

全国自由学校

自由学校は学びの草の根ネットワークです。札幌・八王子・名古屋・岐阜・京都・福岡にも、それぞれの地域に根差した個性的な自由学校が開講しています。また「自由学校」と名乗ることがなくても、地域で市民のための学びの場を提供する取り組みは全国に多数あります。ここではそのいくつかをご紹介します。

■さっぽろ自由学校「遊」

札幌に拠点を置く「市民がつくる、市民の学びの場」です。今年度も、さまざまな社会課題をテーマとした講座を中心に、多彩な講座や学習会を開講予定です。また、「遊」は今年30周年を迎えるため、それを記念した事業も構想しています。講座には1回毎の参加も可能ですので、札幌においての際にはお気軽にお立ち寄りください。

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目愛生館ビル5階 501
TEL:011-252-6752 FAX:011-252-6751
syu@sapporoyu.org
http://sapporoyu.org/
https://www.facebook.com/sapporoyu

■八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」

「知る一つながる一学ぶ一動き出す 未来の人たちに手渡せる社会を選びとろう」のキャッチフレーズのもと、さまざまなテーマの講座やワークショップ、上映会などを開催しています。「豊かさってなんだろう?」「フクシマ」を忘れない企画」「宮澤賢治の朗読・語り塾」等々、市民有志の持ち寄り運営する学習団体です。イベントなどでフェアトレード商品を紹介する「くらし・つなぐストア」も不定期で開店・出店しています。参加メンバー募集中。お気軽にご連絡ください。

〒192-0082 八王子市東町3-4 アミダステーション気付
TEL:070-5567-0168 FAX:020-4624-2381
manabi.tsunagu@gmail.com
https://www.facebook.com/843kozapage/?ref=bookmarks
http://www.gakkou.org

■あどぼの学校

京都、名古屋、岐阜のNPO/NGO関係者と協働し、あどぼの学校運営委員会を組織し、アドボカシーの担い手育成講座である「あどぼの学校」の実施、ならびに各地域のアドボカシー研究・分析を行っています。あどぼの学校のローカル版の実施・全国展開を図りながら、各地のアドボカシーの実践者をネットワークするアドボカシープラットフォームの設立などに取り組んでいます。

〒503-2124 岐阜県不破郡垂井町宮代1794番地の1
フェアトレードショップ&地産地消 みずのわ内
TEL:0584-23-3010 FAX:0584-84-8767
info@sento-tarui.org (特定非営利活動法人 泉京・垂井)
https://www.facebook.com/advono/
http://adobono.strikingly.com/

■PP21ふくおか自由学校

自分たちの暮らしと世界がつながっているという視点から世界を知り、そのことを通して日本を、福岡を、とらえかえす場です。縦割りの社会に新しい横の関係創造します。参加者同士が刺激を受ける元気になる場です。

〒815-0037 福岡市南区玉川1-16 鍼灸院えんあん内
TEL:090-4357-7596/080-6406-9251
ohyamayairochou@yahoo.co.jp
http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/



お金の流れをもっとフェアに!! — Fair Finance Guideの取り組み

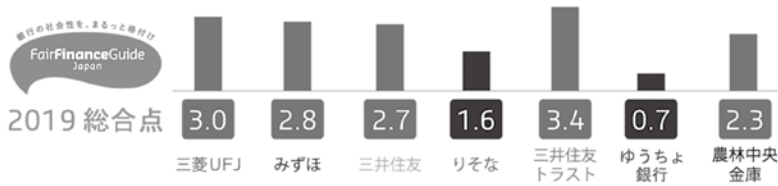
私たちが銀行に預けているお金、保険金として積み立てているお金はさまざまな企業・事業に投資されて世界を巡っています。

例えば、三菱UFJ銀行からは2012年から2016年の間に約500億円の融資が遺伝子組み換え企業として悪名高いモンサントに対して行われました。他にも、国際条約で禁止されているクラスター爆弾や核兵器には国内の大手金融機関4行(三菱UFJ、みずほ、三井住友、三井住友トラスト)から約1.4兆円も融資されていることが明らかになりました。

いったい私たちのお金は何に使われているのか? 銀行と保険会社の身勝手な運用に歯止めをかけることはできるのか?

各金融機関の格付け活動と併せて調査・研究をしています。

◎詳しくはFair Finance Guideウェブサイトへ: <https://fairfinance.jp/>



バナナ研究会—エシカルバナナ・キャンペーン

「いつか身体が壊れるまで働き続けなきゃならない」

「どれだけ一生懸命働いても、子どもたちに何もしてやれない」

PARCの創設初期から調査活動をしてきた鶴見良行氏がその著書『バナナと日本人—フィリピン農園と食卓のあいだ』岩波新書(1982)にてバナナ農園で働く人びとの苦難を明らかにしてから35年以上が経過していますが、今でも現地から聞こえてくる声は上記のような悲痛な声です。

いま、現場では何が起きているのか? 労働者らの状況はどうしたら改善できるのか? 日本の流通・投資・ビジネスのあり方をどのように変えなければならないのか? 現地の状況と日本の経済・社会構造双方に目を向けて解決を探る研究会です。

特定非営利活動法人APLA、(株)オルター・トレード・ジャパンらとともに「エシカルバナナ・キャンペーン」として問題の調査・普及啓発・政策提言にかかわっています。

◎詳しくはエシカルバナナ・キャンペーンのウェブサイトへ: <https://www.e-banana.info/>





環境・暮らしの学校

Environment and Ways of Life

- 08 橋本淳司と歩く わくわく水の旅—自治・防災・未来の〈まち〉をデザインしよう
- 09 ごみ箱の向こう側を見に行こう!—現場で学ぶプラスチックごみ
- 10 コミュニティ・デザイン・ワークショップ—関係の豊かさを描く、創る、表現する!
- 11 畑で実践!!〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

橋本淳司と歩く わくわく水の旅

——自治・防災・未来の〈まち〉をデザインしよう

24時間、365日、蛇口をひねればいつでも飲める水道水が供給される日本。しかし、人口減少と自治体の財政難、インフラの老朽化、「民営化」の推進、そして増え続ける自然災害など、現在多くの課題があります。自治の基本であり、人間が生きるために必要な人権でもある水。ところが「水道事業の実態はわからない」「自分はどの水源の水を飲んでいるか知らない」という方も多しはず。未来世代に持続可能な水道を受け継ぐためにも、まずは私たちが地域の水や水道について知ることが大切です。この講座では、水源や取水堰、地域での防災の取り組み、住民による水管理の歴史などの現場を歩き、楽しく学びます。

● 2020年5月～2020年11月 ● 原則として土曜日 ● 全6回 ● 定員25名

● 受講料：29,000円（集合から解散の間の現地交通費、施設見学料など含む）※集合場所への交通費、現地での飲食費などは各自でご負担ください ※雨天の場合、日程・プログラムを変更する可能性があることを予めご了承ください

◎案内人

■橋本淳司（水ジャーナリスト/アクアスフィア・水教育研究所 代表）

国内外の水問題やその解決事例を調査し、持続可能なまちづくり、流域づくりのための提言・発信を行う。水循環基本法フォローアップ委員会委員。Yahoo!ニュース個人「オーサーアワード2019」受賞。



● 主著：『100年後の水を守る—水ジャーナリストの20年』文研出版 2015
／『水道民営化で水はどうなるのか』岩波書店 2019

雨が降り、雨水が集められ流れゆく範囲を流域といいます。雨が流れて川となり、いくつもの川が一筋の流れにまとまって大海へ注いでいます。土地のデザインは昔から水が行ってきました。私たちが所属する流域を知り、そこでの水の流れや水インフラを学びます。いま日本の社会が抱えているさまざまな課題を流域という単位で再編集することで解決の糸口が見つかるのではないかと期待しています。

Part 1. 水はどこからどこへ？ —水源から家庭、排水まで

5/16

オリエンテーション

東京都奥多摩町を訪ねる

① 私たちの水はどこから？

——東京の水源地を歩く



東京の水源地・奥多摩町の水源林周辺を散策しながら、水を蓄えたり土砂の流出を防ぐ森の役割を学びます。また古くから人びとがどのように水源を守り、水を確保してきたのか、その歴史にもふれます。奥多摩の標高530mに位置する小河内ダムも見学します。



小河内ダム ©Guilhem Vellut



奥多摩 ©kazuhiko kimura

※都内で集合しマイクロバスで現地に向かいます。車内でオリエンテーションを行います。

6/13

東京都羽村市・立川市を訪ねる

② 浄水から下水までの流れを知ろう

水源からの水は、どのように家庭に運ばれ、また使った排水はどこに行き着くのでしょうか。玉川上水の取水口である羽村取水堰、玉川上水の小平監視所、上水小橋などを歩き、一連の流れを実感します。



羽村取水堰 ©HidSby



© ajari

Part 2. 災害に対する地域の取り組み

7/11

東京都江東区・墨田区を訪ねる

③災害と自治を考える(1)

—東京0メートル地帯を歩く

小説にもよく登場する江戸時代の重要水路であった「六間堀・五間堀」跡(両国駅近く)や、水位が異なる河川を通航可能にした扇橋閘門、新小名木川水門の外観から、人びとの暮らしと治水の歴史を学びます。さらに江東区・墨田区での雨水活用の現場も見学し、地域での災害対策の取り組みを学びます。



扇橋閘門 ©江戸村のとくぞう

9/12

東京都北区を訪ねる

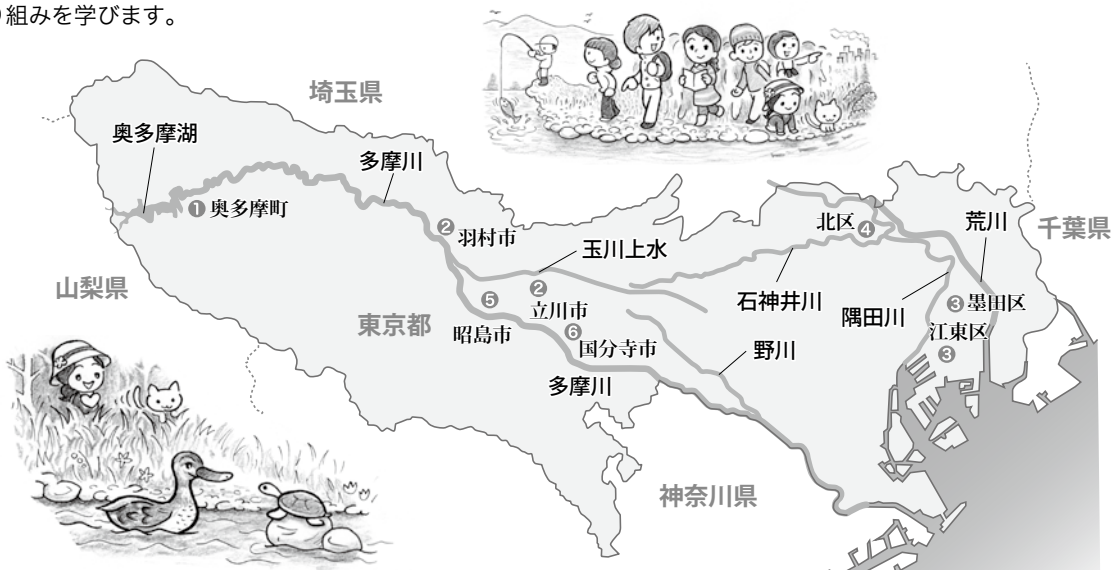
④災害と自治を考える(2)

—荒川から考える都市と治水

明治43年の洪水を機につくられた人工河川・荒川。荒川治水資料館や北とぴあ展望台をはじめ、まち歩きをしながら、その歴史をたどります。また洪水時の浸水シミュレーションなど、流域単位での防災・減災について考えます。音無親水公園では治水事業の変容の歴史にも触れ、現在の暮らしを見つめ直します。



荒川 ©Marufish



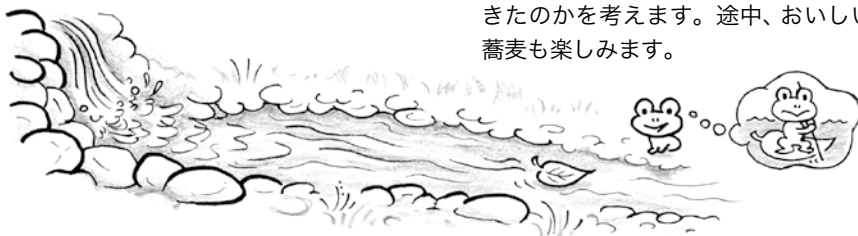
Part 3. 水は自治の基本 —住民が参画する地域の水道へ

10/3

東京都昭島市を訪ねる

⑤地元住民が守ってきた「助けあいの水」

東京の名湧水57選にも選ばれる昭島市・諏訪神社の崖下の湧水。この地域では「水の講」と呼ばれる住民の共同・助けあいによる水の管理が根付いてきました。神社の境内や、近隣のわさび田付近を散策し、水の自治を考えます。



11/15(日)

東京都国分寺市などを訪ねる

⑥雨のゆくえ

—地下水、湧き水、川と暮らし

都内の湧水地として知られる日立中央研究所を出発し、国分寺、野川公園までを散策します。地下水も豊富なこの地域で、住民が昔からどのように水を活用してきたのかを考えます。途中、おいしい水からできたお蕎麦も楽しめます。

ごみ箱の向こう側を見に行こう！

——現場で学ぶプラスチックごみ

安くて・きれいで・丈夫なプラスチックは、ありふれたものになってきました。70年前までほとんど使われてこなかったプラスチックは今や世界中で利用されるようになり、大量生産・大量廃棄を象徴するもののひとつとなっています。しかし、廃棄されるプラスチックの適切な処理方法がないまま、プラスチック製品がつくられ続けてきた結果、私たちは「プラスチック汚染」という深刻な問題に直面しています。この講座では、プラごみの「現場」に足を運び、専門家と意見交換しながら、プラごみの現状を知り、考えます。毎回の講座では、「脱プラ」の実践に向けたミニ宿題に取り組みます。講座の仲間と共に、行動し、発信する、実践者になることをめざします。

- 2020年5月～7月 ● 土曜日 ● 全4回 ● 定員20名
- 受講料：18,000円 ※出かける回の現地への交通費などは各自でご負担ください

◎コーディネーター

八木亜紀子 (PARC理事/開発教育協会<DEAR>職員)

ごみ箱に捨てたプラスチック。回収されたその先は…？ プラスチック製品にリサイクルされているの？ 意外に知らないその先を、歩いて・見て・聞いて、講座参加者と一緒に変化のための行動も起こしてみます。



5/23 14:00～17:00

オリエンテーション

DVD『プラスチックごみ—日本のリサイクル幻想』を鑑賞

プラスチックに囲まれていない生活、考えられますか？

八木亜紀子 (PARC理事/開発教育協会<DEAR>職員)

本講座のねらいをお話するとともに、知りたいことや期待することを受講者同士で話し合っ、講座を通しての関心や目標を共有します。

6/6 午前

東京都大田区・東港金属を訪問

実業者から見たプラごみ処理とサーキュラーエコノミー

福田 隆 (東港金属株式会社 代表取締役/非鉄金属リサイクル全国連合会 リサイクル環境推進部会長)

廃プラ処理を実業として取り組んできた当社が、実体験として感じてきたこと、問題の解決策についてお話したいと思います。プラスチックを減らすと環境負荷がなくなる？ 中国ショックとは？ 廃プラ処理の現状と課題、解決策は？



- 参考ウェブサイト: 東港金属 <<https://www.tokometal.co.jp/>> / リサイクルオタクチャンネル <<https://www.youtube.com/channel/UC13QEW9VgDr8trXUZZoHzVA/>>

6/27 午後

東京都府中市・東京農工大学を訪問

「脱プラ」キャンパスで学ぶ、プラスチック問題の核心

高田秀重 (東京農工大学 教授)



海洋プラスチック汚染、資源問題、温暖化対策、有害化学物質への暴露等、プラスチックに関わる諸問題の核心は使い捨てのプラスチックの使用削減です。中でもペットボトルの削減は鍵であり、本学の「プラスチック削減5Rキャンパス」のターゲットです。

- 共著: 『地球をめぐる不都合な物質—拡散する化学物質がもたらすもの』講談社ブルーバックス 2019 / 『環境汚染化学—有機汚染物質の動態から探る』丸善出版 2015 ● 参考文献: 『いいね』39号(特集: さよならプラスチック生活)クレヨンハウス 2018 / ジャンタル・ブラモンドン+ジェイ・シンハ『プラスチック・フリー生活—今すぐできる小さな革命』NHK出版 2019

7/4 14:00～16:00

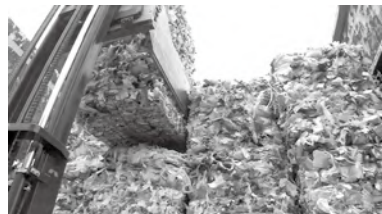
日本は今や「環境後進国」

井田徹治 (共同通信社 編集委員)



深刻化するプラスチック汚染に関する日本政府の取り組みは、海外に比べて大きく遅れています。これは地球温暖化対策や野生生物保護政策についても同様です。今や「環境後進国」となった日本の政策を変えるには何が必要かを考えましょう。

- 主著: 『霊長類』岩波新書 2017 / 『有害化学物質の話—農業からプラスチックまで』PHPサイエンス・ワールド新書 2013 ● 参考文献: 日本環境化学会『地球をめぐる不都合な物質—拡散する化学物質がもたらすもの』講談社ブルーバックス 2019



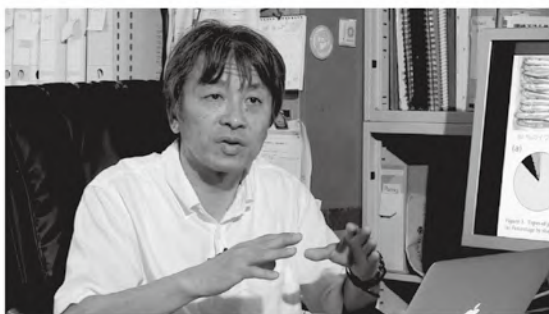
PARC DVD
好評発売中!!

プラスチックごみ

日本のリサイクル幻想

リサイクルという建前のもと
増え続けた使い捨てプラスチック。
生態系全体に汚染が広がるいま、
私たちに問われている未来への選択——。

【監修】井田徹治（共同通信）
【取材】OurPlanet-TV
【定価】4,500円＋税
（図書館価格 15,000円＋税）
DVD / 16:9 / 2019年 / 28分
※解説資料付き



私たちの暮らしのなかにあふれるプラスチック。その生産量は増え続け、現在では毎年4億トンのプラスチックが世界で生産されています。

プラスチックの用途の代表が、ペットボトルやレジ袋などの容器包装です。この身近なプラスチックが、大きな環境問題となっています。石油から作られ、瞬時に使い捨てられるプラスチックが、自然環境中に流出し、半永久的に残り続けるごみとなっているのです。とりわけ深刻なのが海洋汚染。「マイクロプラスチック」と呼ばれる微小なプラスチックごみを通して、有害な化学物質が食物連鎖に入り込んでくることも問題視されています。

「日本では、ごみは分別収集され、資源はリサイクルされている」



そんなリサイクル先進国のイメージとは裏腹に、プラスチックごみへの対応は、日本でも切迫した課題となっています。取材から明らかとなるのは、焼却や輸出に依存してきた、循環とかけ離れた「日本のリサイクル」の実態です。責任をあいまいにした制度設計のために、私たちの利用するプラスチックが、環境汚染や地球温暖化の原因となり、いのちを脅かす負の遺産となっているのです。

リサイクルの幻想を超えて、使い捨てプラスチックごみを削減していくために、私たちに何が求められているのか。問題解決の道筋を探ります。



特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター (PARC)
Tel: 03-5209-3455 Fax: 03-5209-3453
Email: office@parc-jp.org

コミュニティ・デザイン・ワークショップ

——関係の豊かさを描く、創る、表現する！

持続可能な未来を創るためのコミュニティ・デザインの理論と実践を学ばせ。関係の豊かなコミュニティを目指す地域の訪問、ダンス、音楽などのアート／表現活動も通して五感で学びます。

ゲスト講師は、助産師、美術館員、ダンサーなど、自分の仕事を活かしながら「生活者」としてコミュニティづくりに関わるようになった方々。彼／彼女らがどのように活動をするようになったか、その物語を聴きながら、自分のコミュニティ・デザインを実践していきます。

- 2020年5月～11月 ● 原則として土曜日16:00～18:00 ● 全7回 ● 定員15名
- 受講料：28,000円 ※出かける回の現地への交通費などは各自でご負担ください

◎講師&コーディネーター

■中野佳裕(早稲田大学 次席研究員)

1977年山口県生まれ。世界のコミュニティづくりを学びながら、未来社会デザインを研究。学術研究と表現活動を融合させた新しいスタイルの教育を大学や市民講座で実践中。故郷の環境音とシンセサイザーを使った音楽制作も行っている。フランス語、イタリア語、スペイン語、英語の学術書翻訳も手掛ける。



●主著：『カタツムリの知恵と脱成長』コモンズ 2017 ●訳書：S・バルトリニ『幸せのマニフェスト』コモンズ 2018 / S・ラトゥーシュ『脱成長』は、世界を変えられるか？—贈与・幸福・自律の新たな社会へ』作品社 2013

5/23

オリエンテーション

世界のコミュニティづくりの動きを学ぼう！

「トランジション・デザイン」と「関係の豊かな社会づくり」の二つの軸で、動向を整理します。また、本講座のねらい、期待と目標を整理して参加型で2回目以降の講座をデザインしていきます。

6/6

地域の「レジリエンス」を高めるトランジション・タウン運動

2006年に英国の地方都市トットネスで始まったトランジション・タウンの基本的考え方と実践例を、映像作品を見ながら学びます。また、「レジリエンス」を体感するグループワークも行います。

6/27

神奈川県相模原市を訪ねる

身近なトランジション・タウンを訪問する

日本における先駆け地域である藤野を訪れ、現地の取り組みを見学します。

(協力：トランジション藤野)

7/19(日) 10:30～16:00(予定)

東京都世田谷区を訪ねる

世田谷で関係をたがやそう。Tagayaso OOの実践に学ぶ

◎ゲスト講師：園田俊二・高橋孝予(Tagayaso OO)

世田谷大蔵にある、空き家をリノベしたデイケアサービスセンター「タガヤセ大蔵」では、数年前から異世代・異職種の「空き家活用講座」仲間が企画し、多世代交流型のイベントを開催しています。それはまさに〈共=コモン〉の領域を社会関係資本のネットワークで創出していく取り組みです。この回では、タガヤセ大蔵を訪れ他の参加者とともにイベントを体験し、終了後には「Tagayaso OO」のメンバーに、活動を始めたきっかけや代表的な活動についてお話しいただきます。





9/26

コミュニティダンスが繋げる人と社会

◎ゲスト講師：吉福敦子（ダンサー／振付家／ワークショップデザイナー）

コミュニティダンスとは、年齢、性別、障がいやダンス経験の有無に関わらず、誰もがダンスを創り、踊ることができるという考えのもと、アーティストが関わり「ダンスの持っている力」を地域の中に活かしていく活動です。コミュニティダンスの事例報告の後、実際にワークを体験します。



撮影:bozzo

10/24

地域の「音」を再発見！

——コミュニティ・サウンドスケープの実践

2019年1月から講師・コーディネーターが故郷の山口県光市室積で始めた音楽制作活動について説明します。地域の環境音を収集し、それらを素材に音楽を制作・演奏します。地域の音の隠された表情を再発見しながら、地元の人たちとの新たな出会いも演出するワークです。室積で行なわれた音のワークの様子や制作した作品について紹介し、PARC自由学校教室で環境音を使った音楽演奏もしてみます。



11/21

発表&まとめ

グループごとに、自分たちの身近な生活圏もしくはPARC自由学校周辺の地域を素材に、トランジション・デザインのシナリオを作成し、ポスター・プレゼンテーションをします。グループごとに作成した展示物、ダンス、音楽、絵画作品などで教室をエキシビジョン会場に変えます！



畑で実践!!

〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

お申し込みは
キャンセル待ちのみ受付中

池袋から電車で25分、駅から歩いて15分の畑で、固定種・在来種の〈たねとり（自家採種）〉を基本とし、農薬・化学肥料や有機肥料に頼らず、自然や土の力を生かした無肥料自然栽培の基本を実習で学んでいく実践講座です。農作業が初めての方でも、実際に作業を行いながら講座を進めていきますので無理なく続けられます。この道17年のベテラン講師の講習は家庭菜園を長く続けている方にも好評！畑に通い、野菜を育てながら、種まき、育苗、植付、間引き、収穫、母本選抜、種とり（脱粒）、芽かき、摘心、剪定、移植、など一通りの作業を実践で身につけていきましょう。

前の年に、同じ畑から採取した種を中心に種を蒔き、野菜を育てていきます。季節ごとの収穫もお楽しみの一つ！間伐材でプランターを作り、自宅でも自然栽培にチャレンジしていきます。〈たねまき〉から〈たねとり〉まで、いのちのサイクルを感じる自然栽培をはじめませんか？

● 2020年3月～2021年2月 ● 原則として毎月第1と第3日曜日9:00～12:00（予定）

※作業内容によっては午後までかかることもあります ※夏の暑い時期には8:00に開始時間を早めます

● 定員25名 ● 受講料：64,000円（指導料、農具・資材使用料、プランター代、保険料込） ◆ 企画運営協力：H-seed to seed（HSS）

◎講師

関野幸生

無肥料自然栽培を始めて17年目。無肥料自然栽培の普及のため各地で講演活動を行なう。『固定種野菜の種と育て方』を飯能市の野口種苗研究所、野口勲氏と共著にて創森社より出版。



講習の進め方

毎回畑で講習を行いながら実習します。クラスのメンバー全員で一つの区画で一緒に作業を進めていきます。

●育てる野菜（予定）

真黒ナス、松島白菜、黒田五寸人参、アロイトマト、ビックネネトマト、黒皮スイカ、マクワウリ、相模半白きゅうり、唐辛子、スターオブディヴィッドオクラ、楊貴妃オクラ、宮重大根、三浦大根、のらぼう菜、小松菜、みやま小かぶ、バジルなど。

●菜園の場所：HSS圃場 埼玉県富士見野市（東武東上線 柳瀬川駅より徒歩15分程度）

※詳細な場所などについてはオリエンテーションの際にお知らせいたします。事前に確認されたい方は、事務局までお問い合わせください。

●雨天の場合は代替日への振替、もしくはPARC自由学校教室での座学講習会を開催いたします。（講習会時間：10時～12時）。変更の連絡は前日18時までにお知らせいたします。

●日程、内容は状況に合わせて変更することがあります。ご了承ください。

●畑にはトイレ、水道、ロッカーはありません。

●畑で使う軍手、長靴、ハサミなどは各自でご用意をお願いいたします。

【オリエンテーション】

← コロナウイルスの影響で
延期とさせていただきます

3/12(木) 19:00～21:00

会場：PARC自由学校（東京都千代田区神田淡路町1-7-11）

申込手続きを完了された方が対象です。無肥料自然栽培の基礎知識、講座の進め方など詳細な説明を行いますので、かならずお越しください。欠席される際には別途対応いたしますので、ご相談ください。

【畑での講習日（予定）】

3/15	6/21	9/20	12/20
4/5	7/5	10/4	1/17
4/19	7/19	10/18	2/7
5/3	8/2	11/1	
5/17	8/23	11/15	
6/7	9/6	12/6	

【最終講習・ふりかえり】

2/14(日) 14:00～16:00

会場：PARC自由学校（東京都千代田区神田淡路町1-7-11）

1年間のふりかえりと最後の講習を行います。

終了後は懇親会を予定しています。



Alon

表現・ことばの学校

Creative Activities and Language

- 12 ビオダンサー-Diversity: 豊かさのなかへ
- 13 表現することは生きること
- 14 ケイトの "What's Happening In The World!?"
- 15 武藤一羊の英文精読
- 16 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

ビオダンサ

— Diversity : 豊かさのなかへ

南米チリの教育者、詩人、人類学者、心理学者のロランド・トーロが構築したダンス・ワーク「Biodanza (ビオダンサ)」は「いのちのダンス」を意味します。ロランド・トーロは、いのちが本来持つ創造性や調和の力を人間が失いつつあることに危機感を覚えました。そこで、私たちが〈いま・ここ〉に、生身の存在として出会いなおし、人としての潜在力をとりもどす場として、ビオダンサにたどりつきました。音楽のリズムやメロディーの中で、シンプルな動きに立ち返り、グループで分かちあう場では、頭での理解を超えた、腑に落ちるいのちの体験がやってきます。みな同じ人間であることと同時に、一人ひとりが異なる存在であること——。その両方を、全身で実感することは、これからますます多様化していく社会を生きていくうえでの、大きな手がかりになるのではないのでしょうか。みなさまとともに、発見していくプロセスを楽しみにしています。ダンス経験は必要ありません。

- 2020年6月～12月 ● 原則として木曜日19:00～21:30(内容によって延長する場合があります) ● 全13回
 - 定員20名 ● 受講料: 53,000 円 ● 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区代々木神園町3-1)
- ※合宿の交通費・宿泊費・食費などが別途かかります

◎講師

内田佳子 (国際ビオセントリック連盟公認ファシリテーター)

ブラジル音楽に惹かれ、サンバチームでの活動を経て、ブラジルの住民運動を支援するNGOに参加。ブラジルでビオダンサに出会い、2000年に初めてビオダンサを日本に紹介。ファシリテーター資格、養成資格、子ども・思春期向けファシリテート資格を取得。定期クラスやワークショップを開催しつつ、自らも様々なワークや勉強会に参加し、心と身体のつながりを探究し続けている。日本ソマティック心理学会会員。同ソマティック・プラクティショナー・ネットワーク世話人。



◆参考ウェブサイト: 日本ビオダンサファシリテーター協会 (<<https://www.biodanza.jp/>>)

6/18

はじめの一步

— グループとの出会い

ビオダンサに関する基礎的な説明、自己紹介に続いて、言葉以外の出会いとコミュニケーションの場へと導入していきます。



7/2

リズムを感じる

私たちの内外には、身体にしても、遥かなる星々の運行にしても、リズムが息づいています。音楽に導かれて、いろんなリズムで動いていく中から、私たちの内なる可能性の幅を再発見していきます。

7/16

発する、感じとる

ビオダンサでは、グループという場で、各自が内から出てくる自然な動きやペースを大切にすることを学んでいきます。鍵となる、「発する」こと、また相手から「感じとる」ことを、グループのダイナミズムのなかで体験していきます。

7/30

枠を超えて動き出す

普段しない動きを体験することは、あまり発揮していない力と出会いなおす可能性を秘めています。外に向かう動き、内に向かう動き、ダイナミックな動き、静かな動きなど、バリエーションのある動きのなかで、日々の創造へのヒントを探っていきます。





10/15

ミステリー・ツアー1

ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターが特定のテーマを選んで進行します。

10/29

Giving and Receiving

「与える」、「受け取る」は他者との、また世界との関わりの中で、私たちが綿々と受け継ぎ、営んできた根源的な動きです。ダンスを通じて、あらためてその動きを全身で味わっていきます。

11/12

今、ここに、表現を味わう

自身と世界との真摯なつながりの中で、自らの意図をも超えて出てくるものとしての表現。踊ること、また誰かの踊りに立ち会うことから生まれる何かを味わっていきます。

11/26

ミステリー・ツアー2

ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターが特定のテーマを選んで進行します。

12/10

フィナーレ

半年間のサイクルの締めくくりです。ともに場を創造してきたグループの仲間と、一人ひとりのプロセスを祝い、エールを交わし合う意味で、踊り納めをしています。

★BioDance自主講座のご案内

開催期間2020年1月～5月

自由学校が開催されるまでは2019年度受講生有志による自主講座が行われています。単発参加もできますのでお気軽にご参加を！→詳細は46ページへ

9/3

ここちよさに寄り添う

ここちよさを感じる力は、私たちが生まれ持つオのひとつです。日々、機能して働いてくれる身体の、「快」の側面に寄り添い、耳をかたむけることは、より健やかに生きていくきっかけになるかもしれません。

9/17

「型」からあふれだす力にふれる

ロランド・トローは、世界各地の彫刻、壁画、絵画等に見られる人の所作の探索を通じて、地域、時代、文化を超えて人間に共通する潜在力を象徴する22種類のポーズを選び、「生成力のあるポーズ」としてBioDanceに導入しました。この回では、そのうちのいずれかを体験していきます。

9/26(土)～27(日)

1泊2日合宿 🏠👤

BioDance秋合宿！！

いつもの環境を離れて、集中してセッションに臨む2日間は、グループとして、また個人としての体験を、さまざまなかたちで深めてくれます。私たちの内と外で息づく自然と、ゆったりふれあう旅へ、ぜひ一緒にしましょう！

10/1

内なる自然を踊る

「地、空気、火、水」の四大元素の力動的なイメージを踊るのも、BioDanceの醍醐味のひとつです。この回は、そのいずれかの元素にフォーカスをあてていきます。



表現することは生きること

今を生きる新しい視点が見え、ともに生きるエネルギーが湧いてくる講座です。色々な意味で便利になった現代社会。しかし現代ほど人間が分断され、孤独を強いられる時代はないのではないのでしょうか。美しい理念や社会的正義すら人を分断するものとして機能しています。アートは現代社会を反映し象徴するもの。アートという一見曖昧で感覚的な現われの中に忘れられている大切なものが詰まっているのです。個人の思想や社会への問題提起から、スパッと割り切れない曖昧な感覚、矛盾や混乱、葛藤といったものまでも、〈感じる〉ことを通じて共有していきます。

この講座では、「講義・解説」を聞いてアートを理解するだけでなく、〈感じたこと〉を人と共有・「ダイアログ」し、絵を描き、立体作品をつくることを通じて表現の原点についてより深く知っていきます。アートを通じて何かしたい、人とつながりたい方だけでなく、美術やものづくりに苦手意識がある方にもおすすめです。ひとりで作品と向き合うだけでは見えてこなかった視点や新しい自分自身を発見することができるでしょう。

- 2020年6月～12月 ● 原則として木曜日19:00～21:30 ● 全12回 ● 定員20名
- 受講料：48,000円（材料費・画材費込） ※出かける回は現地への交通費・宿泊費・食費・観覧費などが別途かかります

◎講師

■ 中津川浩章（画家／アートディレクター／フリーキュレーター）

ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会を開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設工房集、アール・ド・ヴィーヴルのアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通したコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、さまざまな人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、被災地を含む全国各地で活動。



6/20(土) 午後

東京ステーションギャラリーを訪ねる

展覧会を見に行きその印象をダイアログ

〈水彩・クレヨン・鉛筆〉

「神田日勝 大地への筆触」展を鑑賞し、その印象や感じたことをダイアログし、言葉や絵画で表現します。

6/25

「印象派とV・ゴッホとヨーロッパの近代」

〈点描体験〉

印象派の成立からヨーロッパの近代を考え、生きづらいうゴッホの人生と近代的自我を語ります。モノクロームの画面からカラーへの移行を制作します。静物の明暗を鉛筆で表現。そこから点描の方法で水彩画を描きます。

7/9

「シュルレアリスムと夢ドローイング」

〈水彩・クレヨン〉

夢は自我や無意識の反映だけでなく、日々の生活や社会からの情報をも反映しています。シュルレアリスムの作品について対話し夢・無意識について考えます。そのあと、夢日記から水彩・クレヨンによる夢ドローイングをします。

6/11

リレーして絵を描く： 「対話しながら一枚の絵を見てみよう」

〈グループワーク／紙粘土〉


参加者全員でリレーして一枚の絵を描き、その後粘土で立体を作ります。マーク・ロスコ、G・パゼリッツ、G・リヒターなど絵を見て感じたことを感じたまま話し共有し表現します。

7/23

プレゼンテーションと講評 その1

前期の講義でつくった作品を囲んで、参加者全員でダイアログします。どんな思いで何を感じながら作ったのか、自分の作品を語ることで気づき、他者の感想を聞くことで新たな発見があることでしょう。

9/19(土)～20(日)

東京近郊で1泊2日合宿 

合宿「自画像は語る」

〈さまざまな視点から自画像を描く〉

なぜアーティストたちは、自画像を描きつづけてきたのか？フリーダ・カーロを中心にレンブラント、ゴッホ、ピカソなどの画家の自画像を見てダイアログします。作品を味わった後で、さまざまな角度から自己を観察し、じっくり時間をかけて自画像を制作します。

10/1

「イメージと記憶の交差点」

〈自分だけの写真集制作〉

歴史的に重要なアート、広告写真を見てダイアログします。写真史とともにアンリ・カルティエ＝ブレッソン、U・アージェ、ダイアン・アーバス、広告写真などをレクチャー、ダイアログ、その後自分だけの写真集を作ります。

10/22


講師と一緒にライブペインティング

〈大きい紙にみんなでライブペインティング〉

大きい紙に絵具でライブペインティングをします。終わってから感想をダイアログ。作品は好きなところをカットして持ち帰ります。



10/31(土) 午後

埼玉県川口市を訪ねる 

埼玉県川口市・アート施設「工房集」を訪ねる

——アウトサイダーアートの現場へ

世界的に活躍している作家を生み出している障害者のアート施設「工房集」の展覧会を訪問します。

11/12

表現とコミュニケーションをめぐるクロストーク

〈写真でつくるマンダラ・コラージュ〉

◎ゲスト講師：田口ランディ

小説家の田口ランディさんと表現をめぐるトーク。そのあとマンダラ・コラージュをします。



11/26

「表現の本質って？」 アールブリュットとアートセラピー

〈自由な素材で表現〉

アートセラピーやそれに関するアート、アーティストについて知り、また、アール・ブリュット、アウトサイダーアートの作家の作品を見て、感じたことを話し、「表現すること」そのものについて考えてみましょう。ワークでは自由な素材で表現します。

12/10

プレゼンテーションと講評 その2

後期の講義でつくった作品を囲んで、参加者全員でダイアログします。これまでに作った作品について、互いに感想や意見を出し合うことで、さらに深めます。アートは誰にでも表現でき、語れると実感することが大切です。時代や状況が変わっても、一人ひとりの生きるエネルギーとしてのアートの本質は変わりません。作って終わりではなく、時代を見る目と表現の楽しさを体験し、語り合しましょう！

ケイトの”What's Happening In The World!?”

インターネットのニュースサイトやブログ、ビデオや映像など、さまざまな英語のコンテンツを読んだり、見たりしながらインスピレーションを得て、議論していきます。

インドやオーストラリアでの環境保護運動を調査・研究する国際政治学徒で、日本の自然や文化を愛するエコロジストのケイトさんを講師に、英語での表現を楽しく、そして丁寧に学んでいきます。会話やエッセイを通して、自分の意見をはっきりと伝える力もつけていきましょう。

● 2020年5月～12月 ● 土曜日13:00～15:00 ● 全12回 ● 定員15名 ● 受講料：38,000円

◎講師

ケイトリン・ストロネル (原子力資料情報室スタッフ/浅川金刀比羅神社 神主)

オーストラリア出身。高校生の時に交換留学生として初来日。慶應義塾大学大学院で政治学を専攻。その後インド・ネール大学で博士号を獲得。神主、環境運動家など多彩な顔を持つ。3.11で原発の危険性に目覚め、現在はNPOのスタッフとして脱原発の世界を目指している。



☞ こんな人におすすめ!

- ・環境問題や社会問題について英語でディスカッションできるようにになりたい方
- ・日本の社会・文化について英語で説明できるようにになりたい方

☞ 講座の進め方

その時々ホットピックから、受講生とともにテーマを選び、ニュース映像や記事を取り上げます。

重要な表現や単語の意味を講師が解説した上で、受講生同士で感じたことをディスカッションします。英語を聞き取り理解するだけでなく、自ら考えたことを発信することで英語で論理的に話す力も身に付けていきます。

講師が丁寧にサポートしながら進めるので、英語に苦手意識を持っている人でも安心の講座です。

日程

第1回：5/23	第7回：9/26
第2回：6/6	第8回：10/10
第3回：6/20	第9回：10/24
第4回：7/4	第10回：11/7
第5回：7/18	第11回：11/21
第6回：9/5	第12回：12/5

●受講生の声

NORIKOさん

読み書きは大丈夫だけど会話が苦手な私ですが、生徒さんの英語レベルはまちまちでも、ケイトさんがそれを上手にフォローしながら誰もが参加できるクラスにしてくださいました。生徒と選んだいくつかのテーマについて、ひとつのテーマを2回のクラスで、下調べをしてディベート形式で話し合うという、刺激的な時間を過ごせました。リピーターさん達が、しっかりとした意見を持ちながらも優しい人柄の方ばかりなので、いつも和やかな雰囲気でした。

ダッチョマンさん

とにかく最高の講座です。ケイトさんはとにかく優しく、どんなに下手くそな英語であっても、必ず好意的なコメントを返してくれて、話しやすい雰囲気を作って下さいます。また受講生も素晴らしく、知的でユーモアに溢れた人ばかりです。リピーターが多いのもうなずけます。私も、来年度も必ず受講したいと思います。

武藤一羊の英文精読

講師とともに、一冊の本をじっくりと読み込む講座です。ことばの一つひとつの解釈やそこに込められた作者の思想を読み解きながら、講師と受講生で内容について議論を深めていきます。今年も『載 錦華の『冷戦後の後に—中国史の未来 (After the Post-Cold War — The Future of Chinese History)』を読みます。

- 2020年5月～12月 ● 水曜日19:00～21:00 ● 全15回 ● 定員15名 ● 受講料：46,000円
- テキスト：Dai Jinhua (著) Lisa Rofel (編) "After the Post-Cold War — The Future of Chinese History" Duke University Press 2018 ※テキストは事前に各自でご購入ください

◎講師

武藤一羊 (ピープルズ・プラン研究所 運営委員)

1931年生まれ。「ベトナムに平和を!市民連合」での活動を経て、1969年に英文雑誌『AMPO』の創設メンバーとして日本の情勢を世界の知識人に発信する。1973年鶴見良行、北沢洋子などととも「アジア太平洋資料センター (PARC)」を設立、1996年まで代表を務める。1998年「ピープルズ・プラン研究所」を設立。社会評論家としてノーム・チョムスキーなどの知識人と国際的な親交をもつ。1983～2000年、ニューヨーク州立大で期間教員を務める。



● 主著：『戦後レジームと憲法平和主義—<帝国継承>の柱に斧を』れんが書房新社 2016 / 『潜在的核保有と戦後国家—フクシマ地点からの総括』社会評論社 2011 / 『アメリカ帝国と戦後日本国家の解体 新日米同盟への抵抗線』社会評論社 2006 ● 共訳書：ジャイ・セン他『世界社会フォーラム 帝国への挑戦』作品社 2005

◎テキスト著者：^{ダイ} ^{ジンファ} 載 錦華

1959年北京生まれ。大衆文化・映画・ジェンダーを研究テーマとし、北京電影学院、オハイオ州立大学などの教職を歴任したのち1997年北京大學比較文学・文化研究所の教授に就任。フェミニスト文化批評家としても知られている。

☞ こんな人におすすめ!

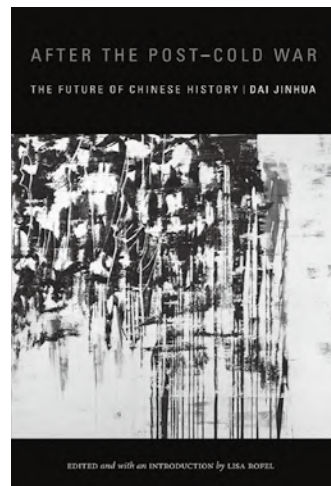
- ・一冊の本を深く読み込む力を身につけたい方
- ・グローバル化した資本主義の先の未来について考察・議論してみたい方

☞ 講座の進め方

各回の予習箇所について、参加者がそれぞれ約1ページずつ、文章を訳していきます(挙手制)。そして、テキストの内容に関するディスカッションを日本語で講師と参加者で行います。英文の読解力を高めたい人にピッタリのクラスです。武藤一羊さんの鋭いコメントも魅力の一つ。

● 講師からのメッセージ

1995年台北で初めて出会って以来、著者はぼくにとって最も信頼できる中国知識人の一人だ。当時から北京大学の超人気教授。専門は映画批評・文化批評だが、それを通じて、中国革命の過去と現在に足を踏みしめながら、グローバルな視野と行動で資本主義を越える未来を探り続ける思想家である。本書はLisa Rofelの編集によるエッセイ集。著者の「ポスト冷戦時代の文化政治」を論じる書物は邦訳されているが、本書では「ポスト冷戦時代」のまたその後、と時代は把握される。本書第一部の表題「トラウマ、退避した記憶、裏返された歴史たち」からは、中国革命のその後を問い、そこから「中国史の未来」を探るといふ著者の立ち位置が読み取れる。これは明らかに中国だけに限る問と探求ではない。そういう観点でこの本を読んでみたい。



日程

第1回：5/20	第6回：7/29	第11回：10/28
第2回：6/3	第7回：9/2	第12回：11/11
第3回：6/17	第8回：9/16	第13回：11/25
第4回：7/1	第9回：9/30	第14回：12/9
第5回：7/15	第10回：10/14	第15回：12/23

世界のニュースから国際情勢を読み解こう

インターネットや雑誌、新聞の英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論する講座です。開発、経済、貿易、食の問題など、日本や世界の情勢についてのトピックから、参加者とともテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく訳す力、そして溢れる情報を判断する力をも身につけると同時に、さまざまなものの見方や考え方に会うことができます。

● 2020年5月～2021年1月 ● 火曜日10:30～12:30 ● 全15回 ● 定員20名 ● 受講料：42,000円

◎講師

廣内かおり (アフリカ日本協議会 TICAD・国際保健担当コーディネーター)

市民団体のメンバーとして遺伝子組み換え問題やTPP問題等の翻訳、通訳に協力しながら、フリーランスとしても翻訳を行う。共訳書にリチャード・J・サミュエルズ『3.11震災は日本を変えたのか』英治出版 2016など。



※講師が分担してそれぞれの回を担当します。

田中 滋 (PARC 事務局長)

米国コーネル大学大学院在学時からACORN (Association of Community Organizations for Reform Now) をはじめとする米国における低所得者層を支援する社会運動に関わる。帰国後は環境NGO A SEED JAPAN 事務局を経て現職。社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク (RIPESS) やアジア太平洋調査ネットワーク (APRN) など国際的なNGOネットワークの理事も担う。



☞ 以前の年度で扱った主なテーマ

- ・米国深南部における現代的差別・分断と政治
- ・旧植民地プランテーションの労働環境と企業の責任
- ・遺伝子組み換えによるマラリア撲滅の是非
- ・アグロエコロジー運動の潮流
- ・抗生物質耐性菌の最前線
- ・米国の連帯経済運動
- ・デジタル時代の個人情報乱用
- ・電気自動車インドネシアから奪うもの
- ・英国労働党の政策と動向

☞ こんな人におすすめ！

- ・日本のことが海外でどのように報じられているのを知りたい方
- ・日本ではあまり伝えられないニュースの裏側を知りたい方
- ・NGOや独立系メディア、批評家の視点や分析を知りたい方

☞ 講座の進め方

事前に講師から送られる海外のニュース記事やNGOのレポートなどを受講生全員で読み解きます。

講師それぞれの市民活動の視点から、ニュースの背景にある社会現象の解説を加えます。英日翻訳やニュースの読み方、NGOスタッフに必要な英文読解力が身につく講座です。

日程

第1回：5/26	第6回：9/15	第11回：11/24
第2回：6/9	第7回：9/29	第12回：12/8
第3回：6/23	第8回：10/13	第13回：12/22
第4回：7/7	第9回：10/27	第14回：1/12
第5回：7/21	第10回：11/10	第15回：1/26



特別講座・ツアー

Special Courses, Tour

時代・社会を問いつける者たち

デジタル経済と人権・民主主義

ワンコイン・シネマ・トーク

日本の移民・難民のいま

アクションツアー—沖縄 2020—平和の祈りを沖縄から

八王子・ユギムラを訪ねる1 day trip—「持続可能な地域づくり」はあなたのそばに

あるがままの自分が認められる場所—「やまなみ工房」を訪問する旅



時代・社会を 問い続ける者たち

©michibanban

この不条理に満ちた世界——。ときに国家や組織による構造的な暴力、不正、個人に内面化された差別、一人ひとりの生命や権利、自由が尊重されず奪われていくこともある社会。生まれ落ちた‘時代’とこの日本‘社会’をいかに生きるのかは、すべての人に差し出された問いといえるでしょう。

この講座は、独自の視点で社会を見つめ、半生をかけて実践的な活動、あるいは表現・思想を積み上げ、いま現在も「人びとへの問いかけ」と「社会変革へのアプローチ」を続ける、さまざまな分野の講師が登場します。長年の経験を通じて、いま何を問うのか、未来をどう展望しているのかなどを提起していただきます。参加者にも活発な議論と交流を期待します。

※単発でも参加できるオープン講座ですが、継続参加を歓迎します。シリーズ全体を通して、自己を振り返り新たな視点を得る機会となり得るような、継続的な受講生同士の対話の場となることをめざします。

- 2020年6月～12月 ● 原則として木曜日10:30～12:30 ● 定員30名
- 受講料：各回1,000円 ※5回分以上のまとめ払い各回900円 ※25歳以下無料

6月11日(木) 10:30～12:30

共生の原理—「二者性」について

| 最首 悟 (和光大学名誉教授)

私達クロマニヨン人は、弱さ故の共生原理としての二者性を育んだと思われる。五世紀前、体力金力に知力が加わり、強さ志向の大転換が始まった。今、二者性を振り返る時である。



●主著：『新・明日もまた今日のごとく』くんぶる 2018／『こんなときだから希望は胸に高鳴ってくる—あなたとわたし・わたしとあなたの関係への覚えがき—』くんぶる 2019 ●参考文献：和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店 1979／金谷武洋『日本語に主語はいらない—百年の誤謬を正す』講談社 2002

7月9日(木) 14:00～16:00

「自分の頭で考える」教育をもとめて

| 根津公子 (元教員)

在職中は、日の丸・君が代の刷り込みに反対し、「君が代」不起立を続けた。現在も、天皇「奉迎」に子どもたちを動員したことを批判し、活動する。子どもたちが「自分の頭で考える」教育への思いを語る。



●主著：『増補新版 希望は生徒—家庭科の先生と日の丸・君が代』影書房 2013

9月10日(木) 10:30~12:30

自分以外の何者にもなりたくない

—ウーマン・リブ運動から50年、「田中美津という生き方」から視えた世界

田中美津 (鍼灸師)

「女らしさを生きることは自分を生きることにならない」と女性たちが立ち上がったウーマン・リブ運動から50年。まだまだ女性たちが生きづらさを抱える中で、何が違って、あるいは何が変わっていないのか、さまざまな角度からお話しいただく。



●主著:『明日は生きてないかもしれない……という自由』インパクト出版会 2019/『この星は、私の星じゃない』岩波書店 2019 ●参考文献:田中美津『新版』いのちの女たちへ—とり乱しウーマン・リブ論』パンドラ・現代書館 2016/田中美津『かけがえのない、大したことのない私』インパクト出版会 2005

10月11日(日) 14:00~18:00

茨城県石岡市を訪ねる 🚶

地球を感じる家: 落日荘

—「心を地球化し、身体を地域化する」

岩崎駿介 (元日本国際ボランティアセンター(JVC)代表/都市デザイナー/建築家)

地球を感じて生きられるよう設計された落日荘。何を感じ、考え、この空間をつくるにいたったのか。近代都市、現代社会に照らし、これからの人間の暮らしへの提言を、落日荘の空間・風景を感じながら伺う。



●主著:『一語一絵 地球を生きる【上巻】—地球上の富めるものと貧しきものとの対立』明石書店 2013/『一語一絵 地球を生きる【下巻】—私たちは「空間」をどうとらえ、どう作るか!』明石書店 2013/『NGOは人と地球をむすぶ:いま国境を越えて、できること、するべきこと』第三書館 1993 ●参考文献:岩崎駿介『地球人として生きる—市民による海外協力』岩波書店 1989/『人間居住キーワード事典—都市・農村・地球』中央法規出版 1995



落日荘とは

地球上の富めるものと貧しきものとの対立、すなわち「南北問題」と、いま私達の目前に迫る「地球環境問題」の解決に努力した30年の経験を踏まえて、終の棲家として「落日荘」を計画し、設計し、自力建設した。落日荘は、「環境建築」であること、つまり「地域環境に調和し、時代を超える持続的な生命力を内に秘めた住まい」であるよう、あらゆる観点から考察し、設計した。

※申込締切: 9月27日(日)
※申込者に集合・解散場所の詳細を別途お知らせします

11月5日(木) 10:30~12:30

歴史を見つめ、隣人と共に生きる社会を

田中 宏 (一橋大学名誉教授)

留学生・在日外国人の人権問題に長く取り組んできた立場から、外国人地方参政権問題、徴用工問題、日韓の歴史問題などについて語り、東アジアにおける平和構築について考える。



●主著:『在日外国人 第三版—法の壁、心の溝』岩波書店 2013 /『共生』を求めて—在日とともに歩んだ半世紀』解放出版社 2019 ●参考文献:金敬得・田中宏編『日・韓「共生社会」の展望—韓国で実現した外国人地方参政権』新幹社 2006 /和田春樹『韓国併合 110年後の真実—条約による併合という欺瞞』岩波書店 2019

12月3日(木) 10:30~12:30

東アジア世界の中の日本

—歴史的に/状況的に

太田昌国 (評論家/編集者/翻訳家)

日本が辿ってきた歴史過程も現在の状況も、自らが位置する《東アジア》という文脈を離れては、正確に位置づけることができない。民族・植民地問題という問題意識の中で、それを考える。



●主著:『チェ・ゲバラ プレイバック「ゲバラを脱神話化する」改題・増補』現代企画室 2009 /『さらば! 検察サイト—太田昌国のぐるっと世界案内』現代書館 2019 ●参考文献:太田昌国『脱・国家』状況論—抵抗のメモランダム 2012-2015』現代企画室 2015 /『増補決定版「拉致」異論—停滞の中で、どこに光明を求めらるのか』現代書館 2018



デジタル経済と 人権・民主主義

デジタル経済や科学技術の進展に伴い、私たちの日常生活・社会ではすでにインターネットを利用した電子決済、SNSを通じたコミュニケーション等が当たり前になっています。産業においてもAI（人工知能）を用いた労働のロボット化やIoT（モノのインターネット）、スマート農業、さらに都市全体をデータ・プラットフォーム化するスマートシティ計画も急速に進んでいます。これら新しい技術やシステムの導入については、利便性やコスト削減など企業側のメリットが強調されたり、個人向けのサービスの充実が肯定的に語られます。しかし同時に、プライバシーや人権、民主主義、自治、ガバナンスという観点からは、課題や懸念が多くあります。この連続講座では、3つのトピックからデジタル経済や科学技術イノベーションの負の側面・課題を分析し、企業の動向、法規制のあり方を議論します。さらに多様な市民社会団体が協力して政府・財界へ政策提言を行うことを目指します。

第 1 回

間違いだらけのSDGs!?

——科学技術イノベーションは世界を“持続可能”にできるのか？

政府や企業は、デジタル経済や科学技術イノベーションによる、「バラ色」の未来を描きがちです。また「科学技術によって、国連持続可能な開発目標（SDGs）が達成できる」とされ、財界も積極的にさまざまな取り組みを行っています。しかし貧困・格差、差別、ジェンダーなど世界各地で深刻な課題は、本当にそれで解決されるのでしょうか？そもそも科学技術と人間はどう向き合うべきなのでしょう？この回では基本的な視座を議論します。

塚原東吾

（神戸大学国際文化学研究所教授）



稲場雅紀

（一般社団法人 SDGs市民社会ネットワーク 専務理事 / PARC 理事）



● 会場：連合会館2F 201会議室

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11
JR中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口（徒歩5分）／東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」、東京メトロ丸ノ内線「淡路町駅」、都営地下鉄新宿線「小川町駅」各B3出口より徒歩0分

● 日時：2020年7月6日（月）19:00～21:00

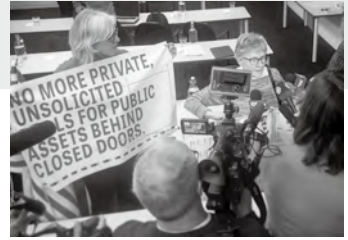
● 参加費：500円（PARC会員は無料）

第2回

監視資本主義のディストピア？

—スーパーシティ・スマートシティと自治体

AIとビッグデータを活用した都市設計が国際的に急速に広がっています。日本では、「スマートシティ」や「スーパーシティ構想(国家戦略特区)」として、ごみ収集や水道・電気・交通をはじめ、医療・教育・社会福祉などの公共サービス、さらに防災・治安に関するデータを一元的に管理する「丸ごと未来都市」をつくと政府は提案しています。これらは人口減・財政難で苦しむ自治体への処方箋とされていますが、自治や人権という観点から見れば問題も多くあります。この回では科学技術と都市政策・公共サービスの民営化を考えます。



トロントでのスマートシティ反対運動
© BlockSidewalk

岡田知弘

(京都橘大学現代
ビジネス学部 教授)



内田聖子

(PARC 共同代表)



●日時：2020年9月4日(金) 19:00~21:00

●会場：千代田区内公共施設

●参加費：500円(PARC会員は無料)

第3回

AI時代の労働の哲学と実践

今後20年ほどで「日本の労働人口の49%がAIやロボットによって代替可能になる」と言われています。この回では「資本と労働」「グローバル化」について考察をした上で、新たな技術と労働の課題を議論します。さらにウーバー等のグローバルなプラットフォーム企業の労働実態と、労働者が結成した労働組合の事例から、どの時代も変わらない働く者の権利獲得運動についても学びます。

川上資人

(弁護士)



●日時：2020年11月予定
19:00~21:00

●会場：千代田区内公共施設

●参加費：500円(PARC会員は無料)

※本講座は「JANIC グローバル共生ファンド」の助成金を受け実施しています。

PARCの調査研究・政策提言活動

▶持続可能な貿易・投資協定と、民主的なデジタル経済のガバナンスを

PARCは設立以来、グローバル化を推進してきた国際通貨基金(IMF)や世界銀行、そして世界貿易機関(WTO)について、世界の人びとと協力して調査・提言を行ってきました。2010年以降は、特に日本も積極的に加わり始めた自由貿易協定の問題に力を入れています。TPPや日EU経済連携協定、RCEPなどのメガ自由貿易協定、2020年1月に発効した日米貿易協定について、各国のNGO等と協力して交渉をウォッチし、協定内容を分析・発信しています。さらに近年、貿易分野とも関連して世界中で進むデジタル経済・科学技術イノベーションに関しても、調査・提言活動を行っています。これらの分野で政策提言活動を行うNGO・市民団体は日本でも少なく、多くの方々に活動に参画いただき、市民社会からの声を政府や議会に届けたいと私たちは考えています。セミナーの他にも随時研究会も開催していきますのでお気軽にお問合せください。



PARC DVD 関連講座



ワンコイン・シネマ・トーク

国際的な課題として共有されている、公正で持続可能な社会の実現。日本に暮らす私たちにはどのような選択が求められているのでしょうか。「ワンコイン・シネマ・トーク」では、PARC制作の映像作品を見て、講師のお話を聞き、参加者みんなで議論します。

●月曜日 19:00～21:30 ●参加費：各回500円 ※特別オープン講座につき、どなたでも1回から参加可能です

7/13

■テーマ：**東京五輪が遺す苦い教訓**——2020年大会の調達基準は森林破壊を防げたか？

■上映作品：『検証！オリンピック—華やかな舞台の裏で』（2014年、25分）

|◎講師：**川上豊幸**（レインフォレスト・アクション・ネットワーク 日本代表）

2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック。祝賀ムードの一方で、その建設や運営をめぐるのは、さまざまな問題が指摘されてきました。「環境配慮の推進」が謳われるなかで浮き彫りとなった大きな懸念のひとつが、木材調達をめぐる問題です。大会組織委員会は「持続可能性」を掲げた調達基準を定めましたが、実際には、熱帯林破壊や人権侵害に関係した木材が五輪建設に利用されています。東京五輪の掲げた取り組みではなぜ問題が疑われる木材を排除できないのか？ 環境と人権を守る木材調達のためには、どのような制度と運用が求められているのか？



11/9

■テーマ：**有害廃棄物をめぐって、いま世界で問われていること**

■上映作品：『プラスチックごみ—日本のリサイクル幻想』（2019年、28分）／『世界をめぐる電子ごみ』（2011年、36分）

|◎講師：**井田徹治**（共同通信社 編集委員）

過去半世紀ほどのあいだに私たちの暮らしを一変させてきた、軽くて丈夫なプラスチックや小さくて精密な電子部品。プラスチックの容器や包装を日々使い捨て、さまざまな電子機器を年々買い替えることは、もはや生活の一部となっています。ところが、便利さの裏で問題となってきたのが、これらのごみによって生まれる、国境を超える環境汚染です。環境中に流れ出た廃棄物による生態系や人体への影響が解明されるにつれ、有害廃棄物の移動を規制し、また、製造段階からの発生を抑制することが国際的課題として認識され始めています。



12/7

■テーマ：**〈なりわい〉としての森林経営**——持続可能な林業が地域を再生する

■上映作品：『壊れゆく森から、持続する森へ』（仮）（2020年完成予定）／『海と森と里と』（2010年、35分）

|◎講師：**上垣喜寛**（自伐型林業推進協会 事務局長）

豊かな生態系と人びとの暮らしを育んできた森。日本は国土のおよそ7割を山林が占める、森林資源の豊富な国です。ところが現在、森林の荒廃が日本各地で進行しています。水源の確保や防災にとっても不可欠な森林の保全が行われず、大規模な伐採・搬出によって山そのものが崩壊する事例も少なくないのです。そんな状況のなか注目を集めるようになってきているのが、これまで従事者人口の減少が続いてきた林業の持つ可能性です。持続可能性と地域経済活性化をもたらす〈なりわい〉としての林業に、新たな関心が寄せられています。



〈PARC DVDとは?〉

グローバル化の時代といわれる今日、私たちは、身の回りにある「安さ」「快適さ」がどのように成り立っているのか、ふだん意識することがありません。アジア太平洋資料センター (PARC) では、アジアの市民団体や研究者のネットワークを活かして、私たちの暮らしと結びついた環境問題や人権問題を問いなおす映像作品を世に送り出しています。身近なモノやコト、あるいは一見すると遠い世界の出来事について学び、考えるための教材として、全国の学校や学習会で活用されています。

新作DVD発売記念
特別オープン講座

日本の移民・難民のいま

2019年4月、政府は改正出入国管理法を施行し外国人労働者の受け入れ拡大を開始しました。その一方で、「安全・安心な社会の実現のため」として、日本にすでに滞在する外国人に対する厳しい管理強化策が進められています。それは時として突然の長期収容・送還の形で実行されており、その厳しさそのものが一種の社会問題と化しています。さらに、難民の受け入れは相変わらず厳しく、認定率はいまだに1%以下と地を這うほどの横這いです。開いているようにアピールしながらその実は固く閉じている——。移民・難民をめぐる大きな矛盾です。

しかし、実態として日本社会はこれから今まで以上に外国人労働者に依存しなければ成り立たないものになっていきます。この国の移民と難民の実態を学び、第一線で支援を続ける講師陣と一緒に、これからの移民・難民政策について考えてみましょう。

●月曜日19:00~21:00 ●受講料 各回1,000円 ※特別オープン講座につき、どなたでも1回から参加可能です

5/25

外国人労働者受け入れと日本の移民政策

| 鳥井一平 (移住者と連帯する全国ネットワーク 代表理事)

日本はすでに260万人以上の外国籍移住者・労働者が暮らす「移民社会」。しかし、日本で働き、日本で生きる、「彼ら」の人権は「日本人」と同じようには保障されていません。



●参考ウェブサイト: 移住連 <http://migrants.jp>

6/8

『外国人収容所の闇—クルドの人々は今』上映

入管収容施設で何が起きているか

| 山村淳平 (医師) / 難民当事者の方

外国人労働力受け入れ拡大の裏で起こる、外国人収容所での人権侵害。実態を知り、移民・難民政策のこれらを考えてみましょう。

●参考文献: 山村淳平・陳天璽『移民がやってきた—アジアの少数民族、日本での物語』現代人文社 2019 / 「壁の涙」製作実行委員会編『壁の涙—法務省「外国人収容所」の実態』現代企画室 2007

6/22

日本の難民受け入れ制度の実態

| 駒井知会 (東京弁護士会 弁護士)

日本に安全を求めて避難してくる彼らが、どのような問題に直面しているのか。現場を知る弁護士だからこそお持ちの短い動画・画像等を見せていただきながら、お話いただきます。



●主著: 『世界の難民をたすける30の方法』(共著) 合同出版 2018 / 『外国人の人権』(共著) 明石書店 2012

『外国人収容所の闇—クルドの人々は今』

(DVD / 日本語・英語 / 39分)

定価 本体2,000円+税 (図書館価格: 本体10,000円+税)

トルコでの迫害を逃れて、日本にやってきた少数民族クルドの人々。難民として認められることを求める彼らを待ち受けていたのは、出入国在留管理庁(入管庁)の管理する収容施設での長期収容だった。外国人労働力受け入れの裏で繰り広げられる、外国人収容所での人権侵害の実態をあらわにする。



アクションツアー沖縄 2020

特別講座・ツアー



平和の祈りを沖縄から

洞中の島、沖縄は私たちに多くの問いを投げかけます。

抵抗運動を続ける人びとへの警察や機動隊の弾圧は厳しくなる一方で日々緊迫した状況が現地では続いています。このツアーでは辺野古を訪問し、私たちも抗議の意思を訴えながら、基地や戦争に反対する思いを共にする人びとと交流します。

沖縄各地での活動の現場と歴史を巡り、人びとと出会いながら繋がり、私たちがそれぞれこれからどのようなかわりができるのか共に考えてみませんか。学び、歩き、動き出すための旅です。

● 日程：2020年11月20日(金)～11月23日(月) 3泊4日

● 参加費：59,000円(宿泊費、1日目夕食代、2日目朝・昼・夕食代、3日目朝・昼・夕食代、4日目朝食、現地での移動費、入場料、保険代など含む)

※本ツアーは現地集合・現地解散となります。集合場所まで及び解散後の交通は各自でご手配ください

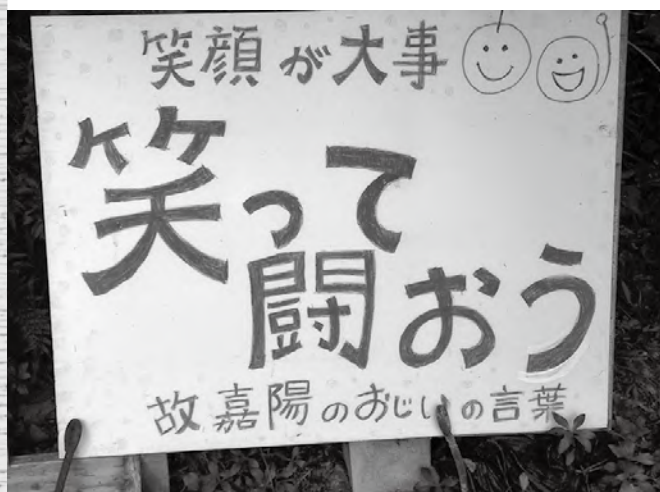
※23日昼の本ツアー解散後、希望者は南部戦跡・聖域オプションツアー(別途参加費5,000円・昼食費込)にご参加いただけます

※宿泊は基本的に男女別の相部屋となります

● 定員：17名 ● 申込締切：2020年10月31日(土)

※期限内でも定員に達し次第、締切とさせていただきます

※締切後のお申込みについてはお問い合わせください





◎案内人: **太田武二** (命どう宝ネットワーク代表)

1949年宮古島生まれ。東京育ち。運転手として働きながら、さまざまな平和活動・集会に参加。沖縄を軍事拠点から平和の要へ変えるための運動の中で三線を弾き始める。自ら集会や芸能文化祭、スタディツアーなどを企画・開催。



※スケジュールは現地の状況・天候などにより変更になる場合があります

※本ツアー是那覇空港集合・解散になります

日程・プログラム(予定)

11/20(金)

- ・12:00 那覇空港 3階ロビー集合
- ・貸切バスにて辺野古へ移動し、午後の座り込みに参加
- ・恩納村宿泊

11/21(土)

- ・辺野古訪問(シュワブゲート前テント、海のテントなど)
- ・大浦湾を巡る船に乗船(※現地の状況・天候などにより中止になることもあります)
- ・安和棧橋、塩川港見学
- ・万座毛見学
- ・恩納村宿泊

11/22(日)

- ・米軍の沖縄島上陸の地、読谷村の各地を訪問(チビチリガマ、残波岬、座喜味城址など)
- ・チビチリガマに設置された平和の像を制作した金城実さんアトリエ訪問・お話
- ・BBQディナー
- ・読谷村 民宿何我舎(ぬーがやー) 宿泊

11/23(月)

- ・那覇へ移動
- ・道中、道の駅かでなから嘉手納基地見学、嘉数高台公園から普天間基地見学
- ・10:00 那覇空港 解散

※解散後、希望者はランチ&南部戦跡と聖域をめぐるオープンショナルツアーに参加可能。糸数アブラガマ、玉城グスクなどを訪問予定。17時解散予定。参加費5,000円(昼食付)

【お問い合わせ】 特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター(PARC) 自由学校 担当:高橋
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F Tel:03-5209-3455 E-mail: office@parc-jp.org

八王子・ユギムラを訪ねる1 day trip

「持続可能な地域づくり」はあなたのそばに

多摩ニュータウンの際に緑豊かな里山が残る八王子市堀之内。ここでは、1965年から約40年にわたって開発された日本最大規模のニュータウン計画に飲み込まれず、自然、そして人間らしい〈生業・ナリワイ〉を地域で守り抜いてきた歴史がある場所です。そこで今、時代を越えて新たに「持続可能な地域づくり」を実践する挑戦が始まっています。

この東京の田舎、ユギムラを訪ね、自然に触れ、手足を動かしながら、この土地で活動をつづける方々に出会い、話を伺い、地域の「持続可能性」や「豊かさ」について一緒に考えてみましょう。街をほんの一步抜け出したすぐ隣りで、違う時間の流れを体感できるかもしれません。

企画協力：八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」

◎講師&案内人

■田中拓哉（一般社団法人八王子協同エネルギー 代表理事）

エネルギーの地産地消を目指して、市民たちの出資によるソーラー発電事業や廃食用油の燃料化実証実験など、生産者の顔が見えるエネルギーとして情報発信を行う。



■奈良本洋二（里山工房ハチノワクリエイター）

自ら森林の保全活動に取り組みながら、木材や竹でぬくもりある器やカトラリーなどをつくる。鉄や木材の性質について学びながら手作りの体験ができるワークショップも開催中。



●日程：2020年11月14日（土）

●参加費：6,000円（プログラム費、昼食費含む）

※本ツアーは現地集合・現地解散となります。集合場所まで及び解散後の交通は各自でご手配ください

●定員：25名

●申込締切：2020年11月7日（土）

※期限前でも定員に達し次第、締切とさせていただきます

※締切後のお申込みについてはお問い合わせください



プログラム（予定）

9:30 京王堀之内駅改札付近 集合

午前 里山仕事（雑木林を歩いたり、軽作業をします。）
周辺散策・養蜂場の見学など

昼食 青空の下でおいしいごはんを食べよう！

午後 「持続可能な地域づくり」の現場を見学/体験
・地域で再生可能エネルギーをつくる「八王子協同エネルギー」
・無農薬野菜の栽培をする「アンドファームユギ」
・非加熱天然はちみつを生産や地場木材の木工品づくりをする「ハチノワ」

17:00 京王堀之内駅改札付近 解散

※軽作業をしますので汚れてもいい服装、履き物、軍手、タオル、水筒を各自でご用意ください

※雨天の場合、プログラム変更の可能性がございます

【お問い合わせ】 特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター（PARC）自由学校

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F Tel:03-5209-3455 E-mail: office@parc-jp.org

あるがままの自分が認められる場所

——「やまなみ工房」を訪問する旅

滋賀県甲賀市にあるアート活動を行う福祉施設「やまなみ工房」。ここは単なる障害者が通い、過ごす施設ではなく、誰もがあつたままの自分として認められ、自分らしく生きる場所です。それぞれが自分の表現活動することで生まれるアート作品、そこで生まれる物語は、日本だけでなく世界の人びとを魅了しています。案内人に中津川浩章さんを迎える本旅で、<いのち>と向き合い、共生社会の在り方や生きることについて、一緒に考えてみませんか。

◎案内人

中津川浩章 (画家/アートディレクター/フリーキュレーター)

ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設工房集、アール・ド・ヴィーヴルのアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通したコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、さまざまな人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、被災地を含む全国各地で活動。



●日程：2020年10月17日(土)～18日(日) 1泊2日

●参加費：30,000円(プログラム費、宿泊費、17日昼食費、夕食費、18日朝食費、保険代など含む)

※本ツアーは現地集合・現地解散となります。集合場所まで及び解散後の交通は各自でご手配ください

●定員：12名

●申し込み締切：2020年9月30日(水)

※期限内でも定員に達し次第、締切とさせていただきます

※締切後のお申込みについてはお問い合わせください

日程・プログラム(予定)

10/17(土)

11:30 JR草津線 甲南駅 改札口付近集合/やまなみ工房内カフェにて昼食後、工房見学/夕食/ホテル泊

10/18(日)

朝食/ボーダレス・アート・ミュージアムNO-MA 見学/[12:00] NO-MA 付近にて解散

「やまなみ工房」とは

自閉症や知的障害を持つ方々など約80名のアーティストと約20名のスタッフがともに過ごし、アート活動を行う施設。粘土や絵画に取り組む「アトリエころぼっくる」、刺繍や絵画に取り組む「こっとな」、健康のため散歩や運動に取り組みながら表現活動に取り組む「ぶれんだむ」、メンテナンス作業を中心に取り組む「もくもく」、古紙回収をはじめさまざまな活動に取り組む「たゆたゆ」、CAFEを営業をする「hughug」の6つのグループに分かれて活動する。

NHK教育テレビジョンの番組『バリバラ～障害者情報バラエティー～』内でも取り上げられるほかバリ、ニューヨーク等へも作品を多数送り出している。ドキュメンタリー映画『地藏とリビドー』(2018)の舞台。



◆ウェブサイト：<http://a-yamanami.jp/>

【お問い合わせ】 特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター(PARC) 自由学校
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F Tel:03-5209-3455 E-mail: office@parc-jp.org

飛び出せ! 自由学校

自由学校クラブは、「やりたい」と思った受講生有志が自主的に集まり、呼びかけ、活動の中身やスケジュールをつくっていく、いわば「自由学校の課外サークル」です。講座の枠を超えてご参加いただける場です。原則としてどなたでもご参加いただけます。

※各クラブへのお問い合わせや参加申し込みは、それぞれの連絡先に直接ご連絡ください

ビオダンサ 代々木の森 木曜クラス

●日程

2020年: 3/19、4/2、4/16、4/30、5/14、5/28
19:00~21:30

◎講師

内田佳子 (ビオダンサファシリテーター)

●参加費: 1回3,200円 (5回券: 14,000円)

●場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
(最寄駅: 小田急線参宮橋駅)

2019年度PARC自由学校で開催されたビオダンサクラス受講生の有志が、講座が開講しない期間も踊りたい!と立ち上げた自主クラスです。ビオダンサが初めての方も経験者の方も大歓迎です。単発でものご参加もできますので、ちょっと気になっていた方、お試してみたい方もお気軽にいらしてください!一緒に踊りましょう!



■ビオダンサとは

ビオダンサ (biodanza) とはスペイン語で「いのちのダンス」を意味します。南米チリの教育者、人類学者、心理学者のロランド・トーロが、人間の潜在力の回復をめざして構築したダンス・ワークです。初めての方も、経験者の方も一緒に体験出来るクラスです。

■申し込み方法

お申込みの際は件名を「ビオダンサ 代々木の森 木曜クラス申込み (日付、お名前)」とし、本文に以下の5点をご記載の上、「biodanza2017@gmail.com」宛に申込みメールをお送りください。

1. お名前
2. 連絡先メールアドレス
3. 電話番号
4. ビオダンサの経験有無
5. このイベントを知ったきっかけ (ビオダンサHP、PARC、友人から等)

※代々木の森クラスに一度以上参加された方は、お名前とご参加日のお送りください。

※必ず前日までにご連絡ください。担当者からの返信をもって受付完了となります。



詳細・お申込みは
こちらから

Peatix <https://0130biodanza2020.peatix.com/view>

facebook <https://www.facebook.com/biodanza2017yoyogi/>

※ facebook 内「ビオダンサ 代々木の森で」で検索してください。

クラブ



秩父雑穀自由学校のご案内

秩父の大地で近代農業以前の農と食を体で学んでみませんか。開講7年を迎えた秩父雑穀自由学校(埼玉県秩父市)では稲作以前の雑穀(キビ、アワ、ヒエ、大豆等)を1年間通して栽培します。収穫物から味噌や蕎麦を手作りし、畑の雑草や木の実の食べ方を学び、加工もします(例、桑の実、スベリヒエ、キクイモ、タンポポなど)。月に一度畑に通い、仲間たちと語りながらの作業も楽しいですよ。単発参加も大歓迎です!

◎講師

八木原幸雄さん(農民)

佐野守平さん(県立特別支援学校教師で農民)

◎コーディネーター

西沢江美子(農業ジャーナリスト)



●参加費:年間参加10,000円(初回に集めます)／単発参加の場合は1回2,000円
※現地までの交通費は含まれません。・みそづくり、ソバ打ちは別途実費(2,000円ほど)がかかります

●期間:2020年4月18日(土)～2021年3月20日(土)／毎月1回定例開催(基本的に第3土曜日に開催します)

●場所:埼玉県秩父市大宮(上の台)西武秩父駅もしくは秩父鉄道秩父駅から徒歩25分

●年間スケジュール(予定)

※雑穀(アワ、ヒエ、キビ、高キビ、大豆、麦)を栽培しながら以下のプログラムも行います。



4/18(土):開講。雑穀自由学校で目指すものの説明。できるだけ手を使って作物を作り、できたものをすべて食べきることを学び合う。

5/16(土):畑のまわりの雑草から学び、草を摘み、食べる。

6/20(土):食べられる木の実を学ぶ。桑の実、アケビ、梅を採り、食べ方を学ぶ。

7～9月:草むしりをしながら、体にいい雑草を見つける。

10月～12月:冬越し野菜の仕舞い方。干し野菜づくり。

※秩父雑穀学校内で、別途隣町の棚田で米をつくります。米作りは別会費で2,000円。



よく育ったパン用小麦「鴻巣25号」



高キビの収穫作業



秩父の山間地で作られていた地種の大豆「借金なし」を栽培し、味噌づくり

主催:秩父雑穀自由学校事務局 問合せ・お申し込み先:chichibuzakkoku@gmail.com

住所:埼玉県秩父市大宮5734-4(西沢江美子) TEL&FAX:0494-25-4782



高松田んぼの会

- 4月～10月に田植え、草取り、稲刈りなど数回
- 参加費：交通費実費。車で来られる方も歓迎です。
- 場所：高松田んぼの会共同田んぼ
JR常磐線石岡駅よりバス(約20分)
- 連絡先：ichimuratadafumi@gmail.com (市村)

高松田んぼとは茨城県石岡市にある約30アールの共同田んぼです。始めた人の名前にちなんで、こう呼んでいます。この会では、米づくり全般をメンバーが協力して行ないます。農薬と化学肥料は一切使いません。田植えはすべて手植え、稲刈りはバインダーという簡単な機械と手刈りです。活動日は基本的に土日で、現地に集合して一緒に作業を行います。もちろん参加できる日で結構です。作業はベテランの方々が優しく丁寧に教えてくれますので全くやったことのない人でも大歓迎です。米作りを体験したい人、半農半Xを目指す人、自然が好きな人…どなたでも気軽にご連絡下さい。

☆収穫したお米はみんなで購入できます。(白米/玄米/もち米)



クルブ・アンディーノ

- 基本的に月1回、金曜日19:00～21:00

◎講師

| 藤田 護 (慶應義塾大学環境情報学部 専任講師)

- 参加費：1回1000円

- 場所：原則としてPARC自由学校教室

- 連絡先：clubandino2017@gmail.com (野澤)

以前の南米アンデス先住民族のアイマラ語講座がきっかけとなり、サークル活動として続いています。スペイン植民地初期のアンデス高地先住民の信仰や習慣について、ケチュア語で記された『ワロチリ文書』を読み解くため、初歩からケチュア語を学んでいます。各回に日本語で制作された教材でケチュア語を学び、ケチュア語で書かれた文章を読み解いて、神話とは何かについて考えていきます。スペイン語の予備知識は不要です。参加者は過去の教材や講座の音声記録にもアクセスできますので、初めての参加も歓迎です。開催日についてはお問い合わせください。





戦後史を学び、展望を模索する会

●原則として月1回。その都度次回の日を決める。
19:00~21:00

●代表：07年度『検証戦後史』クラス受講生有志

●参加費：自己負担の書籍代の他に1回約200円

●場所：原則としてPARC自由学校教室

●連絡先：asawam@h7.dion.ne.jp（浅輪）

この読書会は、2007年度の自由学校の講座『検証戦後史』が出发点です。最近、戦後という状況は、希薄になるどころか、却って私たちに迫って来るようです。憲法、沖縄、日米、日韓、日中、核、天皇などの問題は、どれも「戦後」という基本問題に根差していて、今も深刻さを増し続けています。私たちは、戦後について、歳月に押し負けたり、安易な通念に頼ったりしないように、出来るだけ多様なテキストを読み継いで行こうとする小さな集まりです。拙くても自分の言葉で正直に話せる場でありたいと願っています。

現代短歌を読む・詠む

●原則として毎月第2月曜日13:30~

◎講師

久々湊 盈子（歌人／千葉県歌人クラブ会長／現代歌人協会会員／歌誌「合歓」発行人／「東京新聞・千葉版」歌壇選者）

歌集『あらばしり』『鬼籠子』『世界黄昏』『麻袋よし』など10冊

●参加費：月2,000円

●場所：原則としてPARC自由学校教室

●連絡先：047-347-5163

nemunokai@mse.biglobe.ne.jp（久々湊）

短歌を作るということは、すなわち、自分を考えることです。言葉を考え、社会を考え、生きている意味を考えることです。すぐれた短歌を読み、自己表現の手段として短歌を作ってみませんか。まったく初めてという方も大歓迎です。

ムビラクラブ

●原則として月1回、金曜日19:00~21:00

●代表：2014年度『親指ピアノの世界へようこそ！』クラス受講生有志

●参加費：1回2500円（※ムビラレンタル料:500円）

●場所：PARC自由学校教室 ほか

●連絡先：090-9132-3602
masa@mbiravakanaka.com（マサ）



2014年度開講の「親指ピアノの世界へようこそ！」クラス参加者有志で続けているムビラ演奏サークルです。ムビラとは、アフリカ・ジンバブエ・ショナの人たちに伝わる伝統楽器。一定の旋律を繰り返し続け、刻まれるポリリズムに乗ってゆくことにより儀式の中で精霊と語る為の通信機器でもあります。関東近郊の他ムビラサークルとの交流や、時折「セブンデイズ」の名でライブ出演もあります（セブンデイズ：ジンバブエで儀式の際に回し飲みされる醸造酒の名前）。初めての方でもレンタルムビラをご用意することが可能です。まずはお気軽にお問い合わせください。

～パルシクの民際協力の現場で～

人と暮らしに出会う旅

パルシクの民際協力事業の現場で、人びとと触れ合い、体験し、文化や歴史を学びます。
事業担当スタッフがご案内しますので、お一人様でのご参加も大歓迎です！

東ティモール アイナ口県

美味しいコーヒーに出会う旅

● 2020年8月 開催予定 ● 旅行代金：調整中（2019年度実績：189,000円、インドネシア デンパサール空港発着）

毎年人気のフェアトレードコーヒー生産者を訪ねるツアー。標高1,300メートルの山々に囲まれたアイナ口県マウベシ郡のコーヒー農家を訪ね、コーヒー豆の収穫、加工作業を手伝い、農家宅での民泊を体験します。新鮮なコーヒーを飲み、生産者と語り合います。



マレーシア ペナン、イポー

多民族文化を学び、マングロースを植える旅

● 2020年12月 開催予定 ● 旅行代金：調整中（2019年度実績：219,000円）

経済発展と多民族多文化共生社会を模索しつづけるマレーシア。人びとが織りなす歴史と文化を体験し食する旅です。ペナンの小さな村で伝統的な漁法を生業にしてきたマレー系漁民が、破壊された漁場と環境を回復するためにマングローブ植林に取り組んでいます。植林を体験し、自然と人の共生をもに考えます。



スリランカ 南部 マータラ県 デニヤヤ

フェアトレード紅茶 有機農業を支えるボランティアツアー

● 2021年3月 開催予定 ● 旅行代金：調整中（2019年度実績：219,000円）

インド洋に浮かぶ光り輝く島、スリランカ。その豊かな自然の中で、紅茶栽培の有機栽培に取り組む小規模農家。シンハラージャ森林保護区に隣接する茶畑で、地域の自然や人びとの安全を守るための、持続可能な仕組みづくりを応援しませんか。紅茶農家にホームステイし、人びとの暮らしに触れながら、学び、農作業ボランティアをする旅です。



現地プログラム企画：特定非営利活動法人 パルシク 旅行企画：株式会社 風の旅行社 受託販売：株式会社 ピース・イン・ツアー

◎その他、日本国内ツアーも開催する予定です。

◎ツアー日程、旅行代金は変更になる可能性があります。開催が近くなりましたらWebサイトやSNSにて告知いたします。詳細は下記のパルシク東京事務所連絡先までお問い合わせください。

お問い合わせ先

特定非営利活動法人パルシク (PARCIC) <https://parcic.org>

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F

Tel. 03-3253-8990 / Fax. 03-6206-8906 / Email : office@parcic.org



パルシクは認定NPO法人です。パルシクへのご寄付は寄付金控除の対象となります。

民際協力とフェアトレードのパルシック

パルシック (PARCIC) は2008年4月にPARCが組織分割をして誕生したNPO法人です。国境を越えて人と人が信頼に基づき協力する「民際協力活動」を、東ティモール、パレスチナ、レバノン、シリア、スリランカ、マレーシア、インドネシアで展開しています。

事業を通じて商品化したフェアトレード商品も販売中

▽1Fパルシック事務所にお立ち寄りください
パルシックのフェアトレード商品(東ティモール産コーヒー、ハーブティー、スリランカ産紅茶、スイーツ)を、自由学校教室の1階、パルシック事務所で販売しています。ラッピングしたギフトセットやお手土産もすぐにお渡しできます。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

営業時間：10：00～19：00頃(土日祝休)



スリランカ産紅茶3種(左からアールグレイ、ルフナ、ウバそれぞれリーフ/ティーバッグ)



東ティモール
コーヒー

▽オンラインショップならクレジットカード、電子マネーも使えます

各種商品のほか、季節のギフトセットも取り揃えています。贈り物にもぜひご利用ください。

オンラインショップ パルマルシェ

Par Marche

フェアトレードショップ「パルマルシェ」

URL: <https://parmache.com>



アールグレイワッフル

パルシックの民際協力事業へご寄付でご協力ください

パルシックは地球の各地で暮らす人と人が、国家の壁を越えて助けあい、支えあい、人間的で対等な関係を築くことを目指して活動しています。あなたの寄付で、パルシックの活動を支えてください。ご協力を心よりお待ちしております。

※パルシックは認定NPO法人です。パルシックへのご寄付は寄付金控除の対象となります。

事業地を指定してご寄付いただけます

指定先事業：シリア難民支援、パレスチナ、子どもや高齢者の居場所づくり(東京都葛飾区)、東ティモール、スリランカ、マレーシア、日本国内の災害支援、事業全般

寄付送付先

■銀行振り込みで：下記の口座へのお振込みと、寄付者特定のためフォームよりご連絡をお願いいたします。ご入金確認後に、担当者よりご連絡を差し上げます。

〈郵便局から〉 郵便振替口座：00140-8-536957 口座名：パルシック

〈銀行から〉 三井住友銀行 神田支店 (普通) 2384136 特定非営利活動法人パルシック

■クレジットカードで：使用可能なクレジットカード

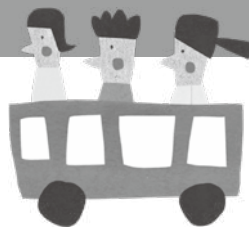


寄付ページQRコード▶



レバノンの教育センターへ通う子ども

◎詳細はパルシックWebサイトをご覧ください。 <https://www.parcic.org/donation/donate/>



受講登録の流れ

STEP1:お申し込み

1)お名前、2)ご連絡先、3)ご希望されるクラス、4)過去の受講経験等をご連絡ください。

ウェブサイトからのお申し込み

<http://www.parcfs.org/>

電子メールでのお申し込み

office@parc-jp.org

ハガキ、電話、FAXでのお申し込み

〒101-0063
東京都千代田区
神田淡路町1-7-11 3F
TEL:03-5209-3455
FAX:03-5209-3453

PARC事務局で直接お申し込み

〒101-0063
東京都千代田区
神田淡路町
1-7-11 3F

STEP2:お申し込み内容の確認

ご入金前にお申し込み内容の確認をし、ご希望されるクラス、ご連絡先など間違いがないかご確認ください。
万が一間違いがあった場合はお電話・メールなどでPARC事務局までお知らせください。

お申し込み確認画面で表示された内容をご確認ください

※画面に表示された内容は電子メールでもお送りいたします

お申し込み内容の確認とともにご入金の案内を電子メールにてお送りいたします

お申し込み内容の確認とともにご入金の案内を郵送・あるいはFAXでお送りいたします

その場で担当者とお申し込み内容の確認をします

STEP3:ご入金

ご入金の案内に沿ってご入金ください。クレジットカードのご利用はウェブサイトでのお申し込みの場合のみご利用いただけます。お申し込み内容の確認後、2週間以内にご入金いただけない場合はキャンセルとみなす場合がありますのでご注意ください。

申し込み画面にてクレジットカードで決済

※VISA、
MASTERCARDのみ
ご利用いただけます

お申し込み内容の確認後、2週間以内に ご入金ください

その場で現金でお支払い いただけます

受講登録完了

ご入金が確認できた時点で受講登録手続き完了となります。

なお、入金確認のご連絡や受講登録証書の発行などは行っておりません。領収証の発行をご希望される方はご入金後にPARC事務局までご連絡ください。

受講登録完了

開講2週間前に講座の成立・不成立に加えて、初回の案内をメール・郵送にてお送りいたします。

なお、一度ご入金いただいた受講料は講座不成立の場合を除き払い戻しできませんのでご了承ください。

自由学校入学金について

自由学校を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。
(PARC自由学校の入学金はPARC会員の会費ではありませんのでご注意ください。)

入学金・受講料とも原則として一括でお支払いください。

お支払いいただいた入学金・受講料は、講座不成立の場合を除き、払い戻しできませんのでご了承ください。(消費税はすべて内税です。)

PARC自由学校のシステムについて

○自由学校入学金って？

PARC自由学校を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。一度PARC自由学校に入学登録された方は以降の年度での入学金は不要です。入学金をお支払いいただいた方には毎年受講申し込み受付を開始した時期にパンフレットの郵送やメールにてご案内いたします。

○単発受講はできるの？

原則として、PARC自由学校に通して受講登録いただいた方とPARC会員の方のみ、単発受講が可能です。自由学校では自分の申し込んだクラス以外で関心があるクラスの講義を単発で受講することができるサービスとしてこれを「越境受講」と呼んでいます。パンフレットやウェブサイト、メールでのお知らせなどを見て「ぜひ受けてみたい」というクラスがありましたら、メールや電話でお申し込みの上、当日一回分の越境受講料をお支払いいただきご参加ください。※ことばの学校など、一部越境受講できないクラスがあります。詳細につきましては事務局までお問い合わせください。

その他

○自由学校のクラスを申し込むと何かサービスや特典があるの？

連続講座を一講座お申し込みにつき、特典として他のクラスを一回無料で単発受講できる「越境チケット」を一枚プレゼントいたします。ぜひご利用ください。

○欠席して講義を聞きそびれた！

「欠席した回の配布資料がほしい」「出席したがもう一度聞き返したい」「資料をなくしてしまった」という方のために、講義の音声は毎回録音しており、音声ファイルと配布資料をクラス受講生専用ウェブページからダウンロードすることができます。ご都合により参加できなかった場合や復習などにぜひご利用ください。※出かける回や外での作業中心のクラスなど録音されないクラスもあります。

*受講料の一括納入が困難な方は、事務局までご相談ください。場合によっては分割納入などご相談に応じます。

*PARCの諸活動をお手伝いいただくこと(25時間以上)で、入会金が免除になる制度もあります。

*このパンフレットを送ってほしいお友達などご紹介いただければ、こちらから郵送にてお送りいたします。TEL・FAX・ハガキ・Eメールにてお知らせください。

受講を申し込みたい方は

ウェブサイトから、または電話・メール・FAXで必要事項をご記入の上、お申込みください。※52ページの「受講登録の流れ」も併せてご覧ください。

申し込み締切：2020年5月13日（水）必着

お申し込み後、ご入金のご案内をお送りしますので、郵便局・銀行でお支払いください。ウェブサイトからのクレジット決済も可能です。受講料のお支払いをもってお申し込み手続きの完了となります。先着順で定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申込みください。

アジア太平洋資料センター (PARC) PARC自由学校

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F Tel:03-5209-3455 Fax:03-5209-3453 Email:office@parc-jp.org
郵便振替 00100-2-606697 PARC自由学校/ゆうちょ銀行 ○一九支店 (019) 当座口座 0606697 PARC自由学校

このハガキを切り離して郵送(切手不要)、またはFAXでお送り下さい。5月13日(水)必着

キリトリ線

自由学校受講申込書

講座No.	講座名
ふりがな	
お名前	
生年月日	19 年 月 日
ご住所 〒	
TEL	FAX
携帯電話	
必須(メールのない方はその旨ご記入下さい) E-mail	
その他の連絡先(急な休講時のご連絡のため)	
TEL	

キリトリ線

●自由学校への参加は

1. はじめて 2. 以前受講していた
(年 クラス)

●PARC会員ですか

1. はい 2. いいえ

●自由学校をどのようにして知りましたか

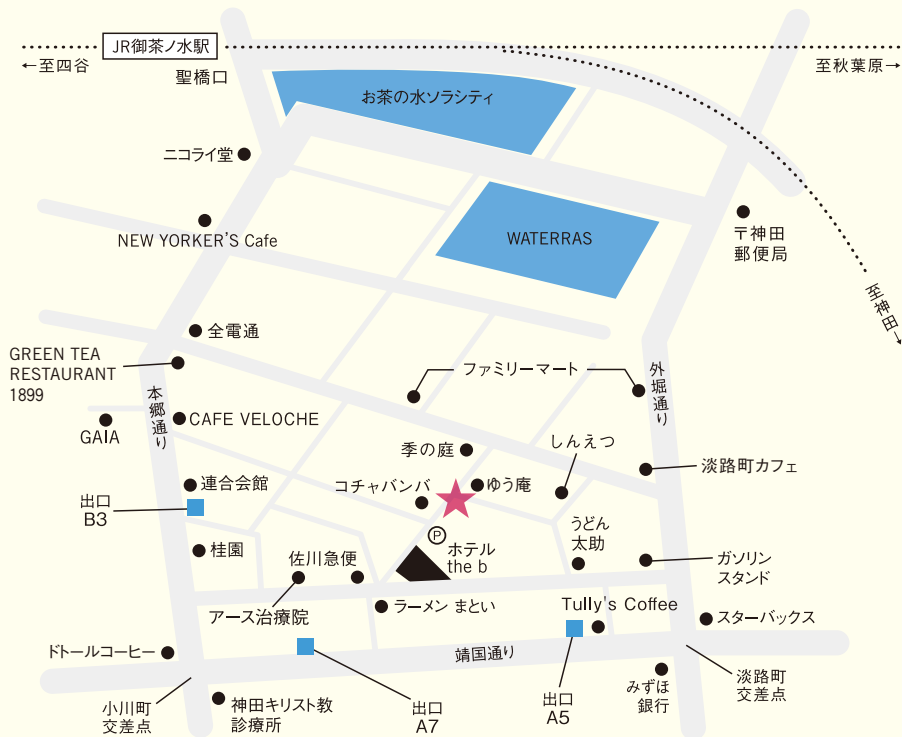
1. 新聞・雑誌で(メディア名)
2. 友人・家族・知人から聞いて
3. 集会・イベントで(集会・イベント名)
4. 置いてあったパンフレット・リーフレットを見て
(置いてあった場所)
5. パンフレットが送られてきたから
6. Eメールで(メーリングリスト名など)
7. PARCホームページ、またはtwitter・Facebookを見て
8. 他のホームページを見て(サイト名)
9. その他()

●ご職業

1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. アルバイト/パート 5. 主婦/夫
6. 学生 7. その他()



- 地下鉄A5出口から徒歩2分
都営新宿線「小川町」 東京メトロ丸の内線「淡路町」または千代田線「新御茶ノ水」 ※いずれの駅も地下でつながっています
- JR「御茶ノ水」聖橋口から徒歩6分



○お友達をご紹介いただければ
パンフレットをお送ります。

お名前

ご住所

○ここ1、2年で住所を変更された方は
旧住所をご記入下さい。

旧住所

差出有効期間
2020年
10月31日まで

2750

料金受取人私
神田承認



郵便はがき

東京都千代田区
神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F

アジア太平洋資料センター
PARC自由学校 行



101-8791
014